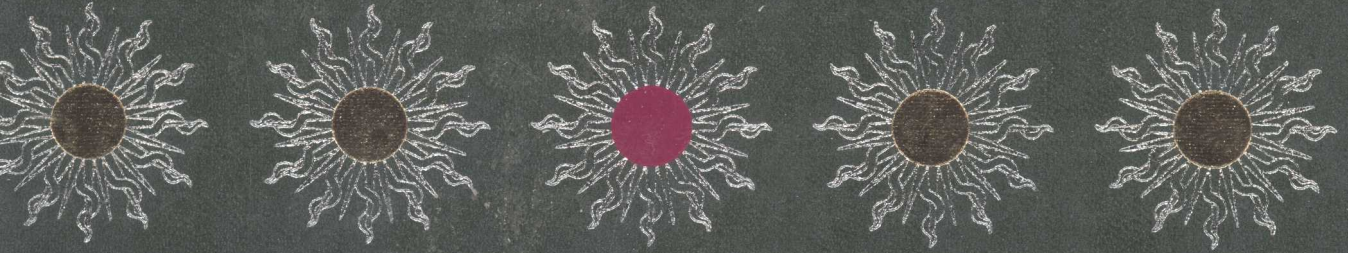

JAPONICA



4





ENCYCLOPEDIA JAPONICA

大日本百科事典

ジャポニカ - 4

© 株式会社 小学館 1980年

昭和43年 8月10日 初版 1刷発行
昭和55年 5月1日 新版 1刷発行

振替	電話	編集・東京 製作・東京 販売・東京	郵便番号	発行所	印刷者	編集者兼 発行者
東京 八 一 二 〇 〇 番	〇三 一三 〇一 五七 三九	〇三 一三 〇一 五七 三九	一〇一	株式 会社 小学 館	澤 村 嘉 一	相 賀 徹 夫

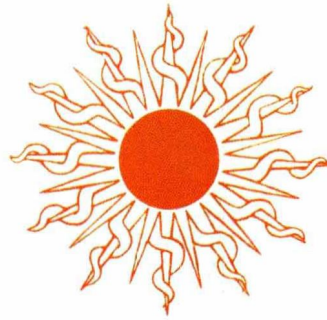
製 本	表紙 特製色 箔用	特 ロ ス抄	ア 特 紙抄	コ 特 紙抄	印 刷
凸 版 印 刷 株 式 会 社	独 逸 顔 料 工 業 株 式 会 社	ダ イ ニ ツ ク 株 式 会 社	三 菱 製 紙 株 式 会 社	王 子 製 紙 株 式 会 社	凸 版 印 刷 株 式 会 社

本書に掲載した地図は、建設省
国土地理院発行の2.5万分1地形
図、5万分1地形図、20万分1
地勢図及び50万分1地方図を使
用して調製したものである

造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁な
どの不良品がありましたら、おとりかえいたします。

Printed in Japan

お お お
お お お



折口信夫 書

オ オ オ
オ オ オ

お 五十音図ア行・ワ行の第五音で母音の一つ。音声記号は「o」。ひらがな「お」は「於」の草書体、かたかな「オ」は「於」の古体「於」の偏にもとづく。ワ行第五音の「を」はもと「wo」で表わされる音で、「いろは歌」成立当時には「o」とはっきり区別されていたが、平安中期以後の音韻変化によって両者は混同し、かなづかいにも混乱が生じた。江戸時代になって「wo」は現代のような「o」の首に変化したといわれる。ひらがな「を」は「遠」の草書体、かたかな「ヲ」は「乎」の最初の三画にもとづく。現代かなづかいでは、「本を読む」などのように助詞として用いる以外は「を」を用いない。〈高山義和〉

尾 お 頭と反対方向にのびた体の部分であり、俗にしっぽともよぶ。積極的に位置を変える運動をするような動物では体の前部部口・感覚器・脳が発達して頭となり、複雑な構造をもつようになる。また、体も運動方向を前後として長くなるが、体の後端は構造が比較的単純で、細長くなることも多く、尾とよばれる。精子の鞭毛を尾とよぶことも動物体との類似からである。一般に尾は肛門より後の部分をいうが、無脊椎動物では、環形動物や昆虫などのように、肛門が体の末端にあるので、尾と胴との間の境界がはっきりしない。脊椎動物では髄板がもり上がって延長したものが尾となり、脊椎や脊髄はあるが、消化管はない。鳥の尾は正確には尾椎骨の上にはえた羽である。しかし、始祖鳥には長い尾がある。〈諸原春一〉

【英】tail ④ queue ⑤ Schwanz

オ オー 英語のアルファベットの第一五字。小文字はo。酸素 oxygen の元素記号として親しみがあるが、数字・電話では「ゼロ」である。略語としては Ocean(大洋)・October(10月)・old(老齢の・古代の)などがある。感嘆詞として用いられる場合は大文字で書かれる。たとえば O dear me! (おやまあー)。o'clock, will-o'-the-wisp では前置詞 of の略であるが、大文字で O は古代アイランド系氏族名の前につけて son of (息子の・子孫の)の意を表わす。O'Brien, O'Connor がそれである。

オアカムロ 〔尾赤鯉〕 Decapterus russel-

③ 硬骨魚類・アジ科の海水魚。本州中部以南の太平洋温・熱帯部およびインド洋・紅海・オーストラリア・南アメリカに分布する。体長40センチに達する。この魚はアジ科のうちでもムロアジ類に属するので、体はほとんど側扁せず長い。吻部は黒く、鰓蓋の上部に黒斑がある。体色は体側の中央に不明瞭な赤みをおびた淡黄色の縦線が走り、背方は青色で腹方は銀白色、各ひれは淡紅色だが、とくに尾ひれがめだつのでこの名がある。マアジよりも丸みのあることと、背びれととりびれの後方に小さいひれが一個ずつある点がマアジと異なる。食用にされ美味。〈山口吉晴〉

雄阿寒岳 おあかんだけ 北海道東部、阿寒国立公園内にあるコニーデ型の火山。標高一三七一メートル。千島火山帯に属する。阿寒カルデラの中にある南西―北東方向の四個の中央火山の北東端にある。山体はかんらん石を含む複雑石安山岩の溶岩流、泥流および砕屑物から成る。山頂に直径三三〇メートルの火口があり、噴出物がカルデラ内部の小流をせき止め、阿寒湖・ベンケトウ・パンケトウをつくった。中腹までの原生林の新緑、紅葉の美は有名。登山は山麓の雄阿寒温泉から登山口まで約四キロ、そこから頂上まで六・八キロ。登り三時間半、下り二時間半。道は相当けわしい。↓阿寒国立公園 ④⑤⑥

オアシス Oasis 砂漠の中で、泉・地下水・河川・掘抜井戸などでつねに水がたやすく得られる肥沃な土地をいう。また、寒帯のツンドラの中で、暖かい水が得られるところもオアシスと称し、これを温暖オアシスあるいは熱オアシスとよぶことがある。

〔種類〕〔泉型のオアシス〕砂漠の中の凹部に地下水が湧泉となって地表に現われたもので、その広さは、小規模な泉地から広大な水面をもつものまで多様である。タリム盆地(中国、新疆ウイグル自治区)のタクラマカン砂漠やサハラ砂漠などに点在していて、砂漠中の唯一の農耕地となり、多くの場合、集落が発達し、隊商の寄泊地となる。

〔外来河川沿岸のオアシス〕砂漠周辺の雨の多い山地から流出する河川が砂漠中を流下する場合も、これをオアシスとよぶ。この例としては、アビシニア高原やビクトリア湖から



雄阿寒岳 マリモで有名な阿寒湖から見た山的全景。全山針葉樹林でおおわれ、山頂付近は高山植物が群生している。

流れ出すナイル川がもつとも有名で、リビア砂漠を流れて広大なオアシスを形成している。ナイル川の谷から河口の三角州に至る間、その面積は三・六万平方キに及び、エジプトの人口の大部分がここに集中している。沿岸は周囲の黄色い砂漠と対照的に緑の樹林や農耕地となり、都市や村落が発達して、人間の生活の場となっている。また、西南アジアのチグリス・ユーフラテス川は、トルコの山地に源を発して砂漠中を流下し、ペルシア湾に注ぎ、沿岸は古代文明・古代都市国家が発達したところである。インダス川沿岸もまた外来河川のオアシスで、ここでも古代文明の発祥をみたのである。

〔山麓オアシス〕内陸地方で雨量の多い山地から流出する河川が、平地の砂漠へ流れ出る山麓にみられるオアシスで、比較的規模の大きいものが多い。とくに、タリム盆地をとり

囲む山麓に多く分布し、ここではカシユガル・ヤルカンドなどの町が発達し、中世末までシルクロードの要地として栄えた。

〔掘抜井戸によるオアシス（人工オアシス）〕雨量の多い山地に降った雨が、砂岩や石灰岩中にしみ込み、これらの岩石が乾燥地域の基盤をつくっているところでは、地下に大量の地下水を包蔵している。そこで、地下数十層から数百層の掘抜井戸を掘ると、自噴する。この人工的な地下水が、乾燥地域のオアシスの役目を果たす。

もつとも有名なのはオーストラリアの大鑽井盆地で、この地下水を家畜の飲み水に利用し、広大な牧羊地域が形成されている。

〔温暖オアシス〕寒帯のツンドラの中に点在するこのオアシスは、暗色の土壌が太陽放射を吸収し、太陽光線をほぼ直角に受け、寒風をさえぎるような地形状態のところに分布する。そこでは各種の植物がはえ、美しい色をした花をつけ、荒涼とした暗灰色の風景の中に、ひととき美しく輝く土地を形成している。

〔オアシス農業〕大部分のオアシスでは、耕地が開けているのがふつうである。砂漠は太陽の光が豊富で、水さえあれば肥沃な農耕地となりうるので、一般にオアシス周辺では、耕作がおこなわれている。サハラ砂漠のオアシスでは、ナツメヤシが特徴的に栽培され、ほかにワタ・オリブ・イチジク・レモン・オレンジ・トマト・キュウリ・ハッカなどの果樹・野菜が栽培されている。これらはほとんど自給農業である。しかし、ナイル川沿岸などの大規模なオアシスでは、オムギ・コムギ・トウモロコシ・キビ・イネその他の穀物が大量に栽培され、経済的に重要な役割を果たしている。これらは、いわゆる在来のオアシス農業であるが、近年、人工オアシスを拡大して、砂漠地帯の緑化計画を進め、各地でその成果があがっている。



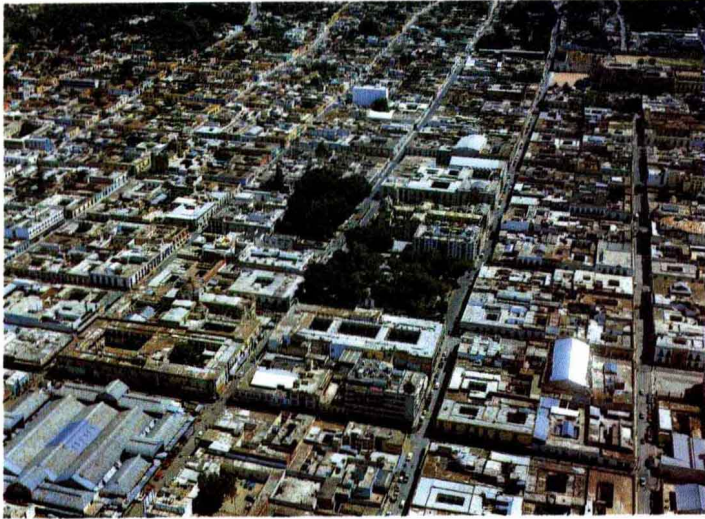
オアシス ガルダイヤ町郊外（アルジェリア）

アメリカ合衆国では、コロラド川にミッド湖という巨大な人工の貯水池をつくり、下流のインベリアル谷の砂漠に灌漑し、広大な果実・野菜畑を開いた。ワタ・アルファルファの栽培も盛んにおこなわれている。またソ連の中央アジアの砂漠地帯においても、東部の天山山脈や南部のヒンズーク山脈から流れ出す川にダムを構築し、大規模な灌漑工事をおこなって、砂漠を緑化し、そこにソフホーズ・コルホーズの農園をつくり、広大な綿作地帯を現出させた。そのほかにブドウ・メロン・スイカなどの果樹や野菜類も栽培されている。このように人工オアシスの拡大による乾燥地域の開発は、世界の急激な人口増加に対して、人口の収容力を増大させ、食糧資源を確保し、砂漠化の防止策として、有力な手段となっている。↓自然改造 《市川正巳》

〔オアシスと世界史〕アジアのオアシス地帯は広大である。西は地中海沿岸からメソポタミア・インダス河域を含み、その北方の東西トルキスタン（西域）、さらに古くは東にのびて黄河の上・中流域にまで及んでいた。オアシスは、砂漠または半砂漠の中の「点」の存在ではあったが、そこでは住民の努力によって農耕が始められた。河水をひき、地下水をくみあげ、水を保護していくには全住民の協力が絶対必要である。こうして、それぞれ個性・特徴をもった民族や文化、都市国家が成立していった。今日、世界の四大文明地域と称される地域は、すべてオアシスであったと認められる。

オアシスが砂漠の上に点々と続いていることは、重大であった。このオアシスを結ぶルート（オアシスルート）を通過しておこなわれた東西の交渉は、歴史時代以前から活発であったと想像される。オアシスルートは、遊牧地帯とそこに住む遊牧民による東西交渉（遊牧ルート）、海上を通過しての東西交渉（海洋ルート）と並んで、世界史における三東西交渉路の一つであり、そのなかでもっとも早く開かれたものである。メソポタミアの先史時代をいれるとる彩色土器と同じ系統のもものが、中国（黄河上流）で出土するのは、オアシスからオアシスへと伝わったものと思われる。またインドで発展した原始仏教や大乘仏教が、西域に伝わり、西域から東隣の中国にはいつて大流行し、やがて日本にまで及んでいる。さらにイランの諸宗教、西方のキリスト教の一派が西域で栄えるだけでなく、中国にも伝わっていることは、古代における東西交渉の存在の証拠とされる。中国特産の絹が、地中海世界を領したローマ帝国にまで運ばれ、東から西へ伝えられたものを代表し、*シルクロード（絹の道）の愛称がこのルートに与えられている。

中国人は、漢代以降七世紀間にわたり、東トルキスタンをさして「三十六国」とよんでいる。これはインド系の無限数の六を、さらに六倍して三六にしたもので、多数のオアシス国家を意味している。オアシスでは住民の努力により農耕が営まれているが、耕地面積をふやすことはできない。「点」の存在であるオアシスとオアシスを結ぶ交通路を隊商（農地なき者）が通り、そして隊商路は文化も政治力をも運んだのである。一方、強力なオアシス国家が弱小のオアシス国家を支配し、また大団に発展した中国が、これらのオアシス国家や市場・隊商路を制圧しようとして軍事力行使する。こうしてオアシスを結ぶ「線」は、いくとおりもできるようになり、オアシス国家の消長もまた「線」により異なったのである。



中世には、オアシス・リルトを通して、中国で発達した製紙法や、インドで発生した製糖法がアラビア世界に伝来し、やがてヨーロッパにまで普及した。

安祿山の乱以後、唐朝と西域との直接の交渉が断たれ、西域東部にはウイグル人が旧来の文化を継承したものの、西部にはイスラム勢力が進展した。その結果、「点」と「線」で結ばれていたアジアのオアシス地帯は、東西に二分されるようになった。近世以後の海上交通の発達には、東西交渉の中心を海洋ルートに移し、隊商による中継貿易を衰えさせた。また土木技術が進むにつれて、交通の方法も変わってきた。現在、それでも地域的にはまだ隊商が残存している。

以上述べたように、時代による盛衰はあるが、オアシスとそれを結ぶ「線」で成立した世界があればこそ、世界史は成立したといえるのである。

④(英)Oasis ④(西)Oasis ④(葡)Oasis ④(独)Oase ④(法)Oasis ④(意)Oasi ④(露)Оазис ④(独)Oase

オアシス都市国家——としかか、オアシスを地盤とする国。一オアシスで一國をつくる場合もあり、また若干のオアシスを支配する場合もある。いずれにせよオアシス農耕を基本とする定着国家である。オアシスは砂漠島と訳されるように、砂漠または半砂漠の中に見いだされた適地を、河水や地下水の利用によって耕地化したものであるから自然の降雨を期待できず、かつ利用する水量に限度がある。したがってある限度以上に耕地を拡大できない。オアシス農耕によって立つ社会が他の農耕社会と異なるあり方をもつ理由である。それは発展性に乏しく、かつ耕地と人口とのバランスがくずれやすい。ここにオアシスで早くから隊商貿易が発達する理由があり、隊商の発達によって農耕村落は商業都市の性格を強め、市場として、また隊商基地として栄え、国家の経営もそこに主点をおくようになる。オアシス都市国家という表現がうなずかれるであろう。

アジア大陸にはこのような発展を示して史上に大きな役割を演じた国が、少なからず興じた。シリア・イラク・イラン・ウズベク・タジク・トルクメン・アフガニスタン・パキスタン・新疆ウイグル自治区などはその舞台となった土地で、それらは地中海沿岸から黄河の上流域まで続く広大なオアシス世界を出現させて、特異な歴史を展開した。とくに、世界史の第一ページがこのようなオアシス都市国家の競立から書き起こされていることは注目されてよい。前三〇〇〇年前後からイラクで示された政治・経済・文化の発展は、オアシスのもつ歴史的機能が最大に発揮されたものと認められる。またオアシス国家はその性格上強い渉外性を持ち、多角的な国際貿易を展開したので、多方面から文化を移入してすぐれた文化を

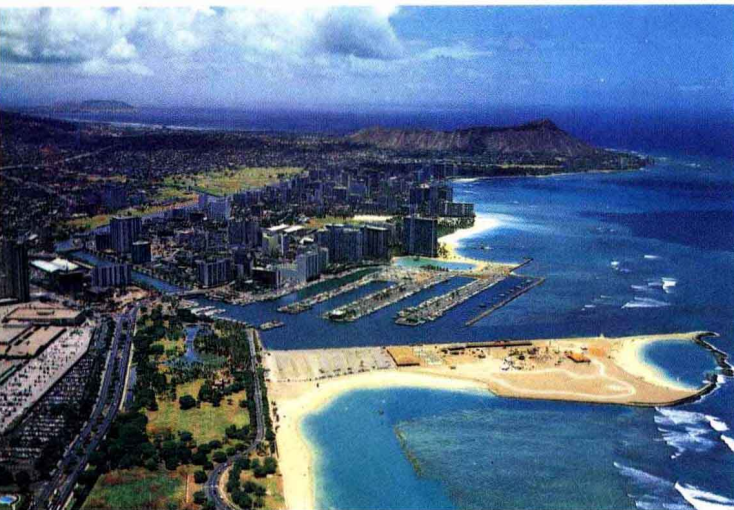
輝かしたが、それだけでなく、その文化を他に伝達する作用も大きかった。シルクロードの上に光る西域は、その顕著な例といえる。

④(英)Oasis ④(西)Oasis ④(葡)Oasis ④(独)Oase ④(法)Oasis ④(意)Oasi ④(露)Оазис ④(独)Oase

オアアズ(川) Oase フランス北東部を流れるセーヌ川の支流。全長三〇二キロ。アルプス高原の西端(ベルギー領)に発し、西流してフランス領にはいる。ラフェールでセーヌ川を合わせ、コンピエーニュ付近でエーヌ川を受け入れ、パリ北西方でセーヌ川に注ぐ。大部分航行可能なうえ、多くの運河でソム川・エスコール川・サンブル川などと結ばれているので、フランス河川の中でも、もっとも通行が多い川である。

オアハカ Oaxaca メキシコ南部、同名州の州都。人口二・三万(一九七〇)。メキシコシティの南東三七〇キロ、標高一五五〇メートルの盆地にある。市内にはパロック芸術の粋を尽くしたサントドミンゴ寺院をはじめ美しい建物が多く、南西五キロの郊外にはサボテカ族の築いた壮大なモンテアルバンの遺跡がある。インディオの集まる市の中心部の市場は色彩豊かである。気候は温暖、周辺は豊かな農業地域で、穀物やサトウキビのほか、タバコ・コーヒー・カカオなどの産物がある。

オアフ(島) Oahu ハワイ諸島の中心的な島で、アメリカ合衆国ハワイ州に属する。面積は一五五〇平方キロ。人口は六三万〇五二八(一九七〇)で、ハワイ諸島住民の約八〇%を占める。多くは白人と日系人で、ほかにフィリピン人・ポリネシア人(原住民)・中国人・朝鮮人などが居住する。火山島であるが、活火山はなく、最高峰はカララ山(二二二八メートル)である。中央部に南北にのびる緩傾斜地がある。島の北東岸は北東貿易風を



うけて降水量がきわめて多いが、南西斜面や南西岸はサバンナとなっている。海岸にはサンゴ礁が多い。世界的な大観光地で、中心都市ホノルルをはじめ、各地に海水浴場やホテルがある。ハワイ州における軍事施設のほとんどが、このオアフ島に集まっており、南岸にあるパールハーバー(真珠湾)は第二次世界大戦当時、日本軍の攻撃をうけたところとして知られる。北東斜面にくらべ雨が比較的少ない山かげの低地ではサトウキビ、台地ではパイナップルの栽培が盛んである。酪農・花栽培などもおこなわれる。

オアフス オールパス

小天温泉 おおまねせん 熊本県北西部、玉名郡天水町にある温泉。有明海をへだてて雲仙岳をのぞむ景勝地。一帯は見渡すかきりのミカン園で小天ミカンの産地。夏目漱石の小

オアフ(島) ハワイ州最大の都市ホノルルの全景。前方海へ向かってのびている岬が有名なダイヤモンドヘッド

説『草枕』の舞台となった「那古井の温泉」はここで、近くに漱石館がある。泉質は単純泉、泉温三七度。熊本からバス一時間、玉名から三〇分。

OR オール 鉄道渡し on rail の略。通常はFOR (free on rail) と称してゐる。鉄道渡しは、貨車渡しと停車場渡しとの二つがある。前者は、売買約定品を指定駅で、鉄道の貨車に積み込むことによって、売り手の責任は解除となる売買契約である。日本ではレール渡しとも呼ばれており、国内取引では発送駅での発送レール渡しと、到着駅での着駅レール渡しとに分かれるが、国際取引では発送駅のレール渡しをさしている。FOR (Free on truck 貨車渡し) と同義である。→FOB

OR オール □オペレーションズサーチ

笈 おい。文箱の一種。負いの意味で、書籍とか仏具・衣類・食器などを入れて背中に負うための箱で、現在のリュックサックのようなものであった。平安時代の『倭名類聚抄』には文書具の中に笈をふまふまこと読ませ「唐韻云笈、又函字、音咸、負書箱也、風土記云、学士所以負書、状如冠箱而卑」と説明してある。『源氏物語』や『宇津保物語』などにもみられるから、すでに平安時代に使用されていたのであろう。後世、行脚僧や山伏あるいは修験者などが旅をするときに用いた。江戸時代の『和漢三才図会』には服玩具の中に「史記に負笈従師とか、高野山の僧が諸国修行に常に笈の中に繪帛雑物を入れ、行った先で販売して糧用に充てたとか、山伏の山伏笈と高野笈とは形が違うのである」といった解説がみられる。木製のものや竹製のものもあり葛籠に似て四すみに脚があり、開閉のための戸がついている。

現在では、歌舞伎十八番の『勧進帳』で弁慶などに欠かせぬ小道具として見ることができ。なお、笈を背負うときに着る衣を笈摺という。

OEEC オイイーシー ヨーロッパ経済協力機構 Organization for European Economic Cooperation の略称。一九四八年、マージナルプランを受け入れ、ヨーロッパの

経済復興をはかるための協力機関として設立された。域内貿易の自由化、通貨の交換性の回復を通じて、ヨーロッパの復興・発展に寄与した。六一年、OECD (経済協力開発機構) に改組された。→OECD

追い写し おいっしり □流しどり

お家騒動 おいえうどう お家騒動は、將軍家にも旗本の家にも、また地主・町人の家にも起きているが、おもに大名家の場合をさしている。相続争いや家臣の権力争いなどが表面化したものであるが、それを必然化した歴史的条件や歴史的背景は必ずしも単純ではない。「三大お家騒動」といわれる黒田騒動・伊達騒動・加賀騒動以外にも、鍋島騒動・生駒騒動・池田騒動・越後騒動・会津騒動・津軽騒動・二の丸騒動・お由良騒動など多数あり、今後、藩の研究が進むにつれて、全国ほとんどの藩において程度の差こそあれ、お家騒動の形跡を認めることになるであろう。

お家騒動を、歴史的背景の変化に即して分類すれば、江戸前期と後期に大別できる。江戸前期のお家騒動は、幕藩権力の一環である藩の体制が築かれていく過程における矛盾が深刻化した場合であり、後期のそれは、幕藩体制の解体にもなっており、藩の体制が動揺のテンポを早めていく状況の中で、藩政の主導権をめぐる競争が激化したものである。その規模・性格ともに前期と後期とは大きくちがっている。

藩の近世的体制が確立する最大のかなめは、藩主の権力の集中・強化に成功するかどうかということである。藩主の一門・親類の実力者が幼弱な藩主の相続問題などに介入して藩政を独占しようとするのに対し、藩主側近の譜代直臣が、藩主と連携して一門を藩政から排除し藩主の権力の強化をはじめ、藩の経済的自立を目指す諸改革を推進しようとするが、一門・門閥上層の抵抗が強い場合には、両者の対立は家中を二分するまでに激化する。藩体制の近代化に関する政策は、農政の刷新、藩士の知行制度の改革、藩士の直接の経済的基礎である蔵入地(直轄地)の確保、城下町を基軸とする流通機構の再編成など多岐にわたっているが、それらの政策を通じて藩主の権力が集中・強化される反面、保守層

の古い既得権が制限されるのは不可避であったから、彼らは藩政執行部に反発し、お家騒動はいやおうなしに準備されることになる。また江戸前期のお家騒動の特色として、諸藩のお家騒動にしばしば幕府の要人が介入し、それが幕府の大名統制に利用されたということがあげられる。前期のお家騒動が、藩の改革という結果にまでなった例が少なくないのは、そのためである。

ところが江戸後期のお家騒動になると、その歴史的背景もちがえば、騒動の内容・性格も大きく変化する。前期のお家騒動にも藩財政の行き詰まりという現象がからんでいたが、後期になると、財政難はいっそう深刻化する。同時に、藩の政治機能まで麻痺させる傾向が出てくる。その前提としては、農村の商品経済が発達し、農民が年貢の米づくりから、商品生産者に成長してきたという事実がある。藩主の江戸の生活費の高騰などにより藩の出費は年々増加し、財政の赤字を農民への重税で解消しようとしても、農民の抵抗にあつて目的を達することができない。低いかえれば、幕府も諸藩も、もはや農民の商品経済を掌握することが不可能になってきたのである。こうなると、従来藩政を運営してきた保守的な上級藩士の能力では、藩政の立て直しは不可能である。そこで中層以下の藩士の登用や、とくに財政改革の場合には茶坊主などの軽格の者を要職に抜擢したり、外部から財政的手腕のある浪人を起用したりする例がでてくる。しかし強固な門閥身分制が支配する幕藩制社会では、「人材登用」が叫ばれても、それが藩の政治機構を根本から変える力ではなく、かけ声に終わる場合が多かった。いかに財政的手腕はあつても成り上がり者に対する反感はきびしいものがあり、それに加え

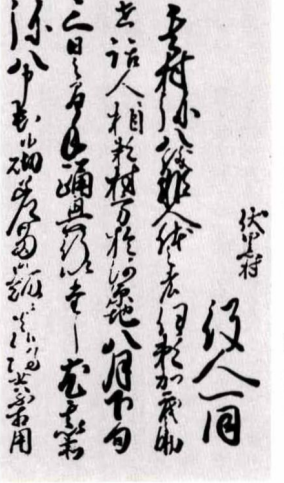
て、儉約の励行や知行・俸禄の借上げなどのくり返しにより、一般藩士の改革への不満は募るばかりであった。南部藩(盛岡)では、下層藩士による藩主暗殺計画さえ下られたといわれる。一方、お家騒動を通じて、中・下層の藩士の改革派が藩政に進出する傾向が

生まれてくるのも否定できない事実であった。また、お家騒動は脚色されて芝居や講談になつてはいるが、そこで悪人とされたお家騒動の主人公たちも、史実に即してその政治的立場や歴史的背景などを検討すると、藩主のために一身をなげうって働いた忠臣であつた場合が少なくないのである。儒教の勧善懲悪史観と、歴史的・客観的な評価とはおのずから別なのである。

お家物 おいえもの 浄瑠璃・歌舞伎脚本の一大系統。時代物のうち、江戸時代の將軍家や大名の家中に起こつた事件に取材したもので、お家狂言ともいう。武家のお家騒動を扱つた「お家騒動物」の略としても使われるが、正確にはこれに「忠臣蔵」のような仇討物もふくめる。「伽羅先代萩」「加賀見山田錦絵」「有職鎌倉山」をはじめ、作品の数は多い。

江戸時代には、幕府の法令により、武家の事件を直接脚色することを禁じられていたもので、これらお家物は、たとえば「忠臣蔵」を『太平記』の時代として描いたように、場所や人名を北条・足利時代に置きかえて脚色するのが慣習だったが、明治以後はその法令がなくなつたため、実名を使う脚本も多く書かれている。

御家流 江戸時代の公文書に使われた一例。一八六七年(慶応三) 福島市近郊伊達郡伏黒村に出された触書の一節



粟田口流とも尊円流とも呼ぶ。この書流は代
代、青蓮院の門主に継承され、室町時代には
いると一つの典型となつて盛行した。当時の
文化を反映して、しだいに個性が影をひそめ
る類型的な流風に墮落していった。さらに、
江戸時代には、あるいは寺子屋の手法によるま
で、広くこの流儀が重用された。このように
長年にわたる実用書や子女の教育書道にまで
普及したことは、その特徴である安易ですな
おな書法が、人々に迎えられたからである
う。 (古谷 稔)

綏 おいかけ 装束用語。武官が礼服着用の際、
冠につける飾り。クジラのひげ、またはウマ
の毛を半月形に並べて、両耳側から頬にあて
るような形できりつけられる。もとは武官が
活動的な行動をするところから、冠を落とさ
ないようにつねに結んだもので、残りを返し
て耳のところに紐でこの下にとめ、残りが形式
化したものといわれている。 (日野西資孝)
追い掛け算 おいかけえん 旅人算の一つ。速
さの異なる二人が、同じ方向に向かって移動
するときの時間や距離を求める計算方法。追
い越し算や追いつき算なども含まれる。 (旅
人算)

老神温泉 おいがみおんせん 群馬県北東部、
利根郡利根村の片品川沿いにある温泉。沼田
からバス一時間。対岸はもと穴原温泉といわ
れた。古くから療養向きの温泉で毎年四月八
日に湯壺のまわりをしめなわをはり赤城の神
を祭る習慣がある。旅館は近年観光客向きに
なった。付近に吹割滝などの景勝がある。泉
質は硫黄泉・食塩泉・単純泉、泉温五三〜一
〇〇度。皮膚病・性病にきく。 (徳久球雄)

オイカワ [追河] *Zacco platypus* 硬骨魚
類・コイ科の淡水魚。東京付近ではハマまた
はヤマベとよんでいる。本州中部以南、四
国・九州、朝鮮・台湾および中国の一部に分
布し、河川の中流域から河口付近にすむ。近
年は東北地方にも移植され、繁殖している。
体長一五センチ、体はやや側扁して長く、
しりびれの大きいのが特徴。体色は背方が茶
褐色、腹方は銀白色で、体側に不規則な幅広の
淡紅色の横斑が数個あるが、とくに生殖期の
雄は青緑・紅・黄褐色などが混じりあって美し



手前の二尾は雌、最後方は雄

い婚姻色
になり、頭
部・体側・し
りびれなど
に*追い星
を現わす。
雌には婚姻
色が現われ
ず、周年同
じ色なので
シロハヤと
よぶ地方も
ある。植物質・動物質のなんでも食べる雑食
性で、五月八月ごろ、流れのゆるやかな砂泥底
に産卵する。釣りの対象魚として愛好され、
食用にも使われている。 (出口吉昭)

及川奥郎 おいがわおくろう (一八六九—一九〇三) 天
文学者。岩手県に生まれ、一九二〇年(大正九)
東京帝国大学理学部天文学科卒業。同大学に
在りて二年(大正一一)から東京天文台に
勤務し、五年(昭和二五)に退官するまで
口径二〇センチの天体写真機を用いて、天体の位
置観測に従事した。その間に小惑星七個を発
見し、それぞれ三鷹・多摩・隅田・箱根・熱
海・日光・利根と命名。三〇年に日本学士院
から東宮御成婚記念賞を受賞。 (島村福太郎)

及川平治 おいがわへいじ (一八七九—一九二九) 大
正、昭和初期の新教育実践家。宮城県出身。
一八九七年(明治三〇)宮城県師範学校を卒
業、樋口勘次郎や谷本富らの影響により新教
育に関心をもつ。一九〇七年(明治四〇)か
ら約三〇年間にわたって、兵庫県明石女子師範
学校付属小学校で「分団式動的教育」の実践
を展開した。彼は注入的(静的)教育を批判
し、子どもの自発活動に依拠する動的教育、
子どもの能力差に応じる指導方法などを重視
した。デュエーイの思想的影響が強いところか
ら、「日本のデュエーイ」ともいわれる。著書
には『分団式動的教育法』(一九二二)、『分団式
各科動的教育法』(一九二五)がある。 (佐藤秀夫)

オイギンズ Bernardo O'Higgins (一七六
一—一八四二) チリの軍人・革命家。軍人の子として
チランに生まれ、イギリスから教育を受け、一
八〇二年帰国。スペインからの独立運動に参
加し、一七七年にサン・マルチンの下でスペイ

ン軍と交戦し、それを駆逐してチリの独立を
宣言した。最高行政官として独裁的改革を進
めたが反対をよび、二三年ペルーに亡命した。
御池通 おいけどおり 京都市の鴨川西岸から
国鉄二条駅前まで、市内を東西に通ずる道
路。御池通と河原町通とが交差する地点に接
して、京都市役所・京都ホテルがある。第二
次世界大戦中の強制疎開によって幅員五〇尺
の道路となり、葵祭・祇園祭・時代祭の京都
三大祭の行列も、近年観光客のために、御池
通を通るようになった。 (織田武雄)

オイゲノール eugenol 4-アリアルル2-メ
トキシフェノールともいう。丁子油・カッシ
ア油・ビメント油・樟脳油などの精油の成分
として広く分布している。含有精油のフェノ
ール成分を希アルカリ水溶液で抽出・中和し
て得る。丁子に似た芳香をもつ無色の液体。
分子量一六四・二二、融点零下九・二度C、
沸点二五五度C、比重一・〇六四。水には
溶けにくい。エタノールやエーテルにはよ
く溶ける。水酸化カリウムを加熱すると、異
性化されてイソオイゲノールとなる。パニ
ルの製造原料をはじめ香料として使われる。
また、医薬品としての用途も多く、菌科での
消毒・鎮痛への外用および虫歯の充填材の原
料となるほか、胃や十二指腸の潰瘍、解熱な
どに内用される。 (広田 穂)

オイケン Rudolf Eucken (一八六九—一九二六)
ドイツの哲学者。東フリースラントのアウリ
ヒに生まれ、ゲッチンゲン・ベルリンの大学
に学んだのち、バーゼル・イエナの各大学の
教授を歴任した。一九世紀後半のヨーロッパ
を支配していた実証主義や唯物論の傾向に対
して、新理想主義の立場に立ち、人間の生き
た精神的生活の全体をとらえ、物質文明の網
の目の重圧にあえぐ人間の生を回復すること
が、彼の哲学の目標であった。ベルグソン・
デュルタイらとともに「生の哲学」の代表者
に数えられ、「多くの著作により理想主義的
な生の哲学を擁護し、また発展せしめたさい
の、叙述のあたためと力強さ」によって、
一九〇八年にノーベル文学賞をおくられた。

主著に『大思想家の人生観』『罪と生と世界』
などがある。
オイケン Walter Eucken (一八七九—一九五〇)
 (坂部 恵)

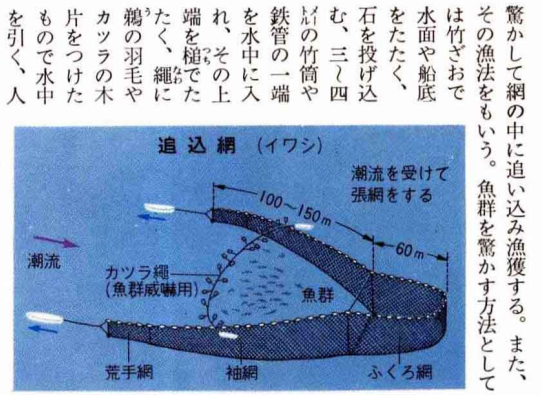
ドイツの経済学者。哲学者ルドルフ・オイケ
ンの子。ベルリン大学・チュービンゲン大
学・フライブルク大学の教授をつとめた。ネ
オリベラリズムの立場から、競争原理の優
位を説いて、国家による自由な経済秩序の維
持を主張した。その理論は、第二次世界大戦
後の西ドイツ経済復興にあたって指導的役割
を果たした。『国民経済学の本質問題』『経済
政策の原理』などの著書がある。 (志田 明)



スのマル
ンドルなど
を歴戦、元
帥となつ
た。スバイ
ン継承戦争
ではイギリ
ス、フラ
ンス、アラ
ンドルなど
を歴戦、元
帥となつ
た。スバイ
ン継承戦争
ではイギリ
ス、フラ

追い肥 おいこえ 作物の生育の途中で与え
る肥料。追肥ともいう。元肥は途中で流れて
しまったりするので、それだけでは生育後期
に肥切れをおこす。これを防ぐためにおこな
うのが追い肥である。また作物の生育の状況
に応じて追い肥として施肥し肥効を高める。
追い肥は主として窒素を用いるが、なかでも
速効性の硫酸・硫酸アンモニウムの化学肥料が多く
使われる。蔬菜類では元肥よりも、追い肥によ
る肥料の分施に重点をおく。水稲は元肥中心
だが、西南暖地や晩生稲の栽培では種肥を含
む追い肥をおこなうのがふつう。 (結田康一)

追込網 おいこみあみ 網漁具の一つ。魚群を



驚かして網の中に追い込み漁獲する。また、その漁法をもう。魚群を驚かす方法としては竹ざおで水面や船底をたたく、石を投げ込む、三・四層の竹筒や鉄管の一端を水中に入れ、その上端を種でたたく、縄に鵜の羽毛やカツラの木片をつけたもので水中を引く、人間が数本のシロ縄などをからだにつけて泳ぐ、などが用いられる。この漁法は、引回し網・巻刺網・巻網・敷網などに利用される。漁獲対象魚はボラ・クロダイ・イナダ・メバル・アユ・イワシ・トビウオ・アジなどである。

《野村正恒》

追い敷 おいしき 追い証ともいうが、正式には追証換金という。客が証券業者から代金または株券を借りて株の売買をすることを信用取引というが、その際、客は一定の証換金(委託保証金)を証券業者に納入する。売買の結果、客の勘定が損失となり、この損失分を証換金から引いた残額が、当初の約定値段の二〇%を下回ったときには、二〇%に達するまで、追加の証換金をとる。これが追証換金で、追証換金に対し、最初に納めた証換金を本証換金・本証・本敷という。《森本三男》

生石高原 おいこうげん 和歌山県北部、有田郡清水・金屋両町と海草郡野上町にまたがる高原。紀勢本線海南駅から野上電鉄が生石口(登山口)に通ずる。高野山から西に向かう長峰山脈の主峰生石ヶ峰(八七〇)を中心とした平坦な山頂は、修験道にちなむ生石神社の神体をなす。一九五五年(昭和三〇)北麓の亀池や東畑梅林を合わせて県立公園に指定された。すずき原の山頂からは紀州北部海岸も眼下にながめられ、キャンプ客も多い。

国民宿舎がある。
生石崎 おいしき 近年は生石鼻という。兵庫県淡路島の南部洲本市由良にある小半島。淡路島の南部を東西に横たわる論鶴羽山地の東端が紀淡海峡をへだてて友ヶ島に相対する風光明媚な岬。付近は第二次世界大戦中要塞地帯として一般人は近づくことができなかったが、戦後は夏はテント村・パンガローができて、にぎわっている。また背後の佐比山は天日槍命を祭る生石神社の所在地、あるいは鳴門ミカンの産地として有名。《稲見悦治》

OECD オーイシーディー 経済協力開発機構 Organization for Economic Cooperation and Development の略称。一九六一年九月、OEEC(ヨーロッパ経済協力機構)が発展的に解消し、その加盟国一八か国のほかに、アメリカ・カナダを加えて設立された国際機構。本部はパリにある。日本は初めての下部機構である開発援助委員会 Development Assistance Committee(DAC)にだけ参加を認められていたが、六四年四月、正式加盟国となった。

OECD の目的は、先進資本主義諸国の国際経済協力を緊密にすることにあり、その大綱は次の三点に要約できる。第一は、高度な経済成長と完全雇用の推進して、生活水準の向上をはかること、第二は、多角的かつ無差別の貿易・決済の体制をつくりだすために努力すること、第三は、低開発地域への開発援助を促進することである。OEC D は北アメリカと西ヨーロッパにまたがり、さらに日本を含む広範な先進工業国間の経済協力機構であるが、加盟各国を義務づけるような強い拘束的な規定はない。その意味では結びつきのゆるい、「クラブ」のような存在といえる。

したがって、加盟各国の各種国内経済政策の調整というよる国家主権にかかわる諸問題の解決をはかることはむずかしいが、貿易や資本の自由化、経済援助の拡大などの面ではある程度の成果をあげてきている。

OEC D の機関は、理事会を最高の議決機関とし、その下に執行委員会があり、さらにその下部機構として、経済政策委員会・貿易委員会・開発援助委員会をはじめ、三五の専門委員会が設置されている。なお、EC(ヨーロッパ共同体)および EFTA(ヨーロッパ自由貿易連合)などの諸機関も代表を派遣している。《川田 侃》

追い証 おいしょう 追いの敷。大淀、おいず、三重県中東部、伊勢湾沿岸にある多気郡明和町の一地区。「伊勢物語」に出てくる「おおよど」の地。一名葉平松で知られる天然記念物「大淀の松」がある。付近は白砂青松の海岸で、ノリの養殖、煮干し加工が盛んである。《福永正三》

オイスター・ホワイト Oyster white オイスター・グレイトともいわれ、カキ(牡蠣)に見るようなわずかに黄緑みを帯びたような白をいう。イギリス色彩協議会・メルツ・ポール・テラー・ノッチ・グラランビルの色彩辞典などで標準化している。一八九三年ごろから一般に用いられた色名。《大作陶太》

オイストラフ Jaana Fëdorovna Oistrakh / David Fëdorovich Oistrakh (カール) ソ連の代表的なバイオリン奏者。第二次世界大戦後、ヨーロッパ諸国をはじめ、アメリカ・日本にも、演奏旅行やレコードによって広く知られるようになった。その演奏の様子は、古いソ連の音楽趣味をかなり残しているが、正確な技巧、それにとりわけ低音をよく鳴らす音色によって、広い支持を受けている。また指揮もした。イーゴリ・オイストラフ(ユニー)は彼の子で、同じくバイオリン奏者。親子で二重奏の演奏活動や録音もおこなっている。《徳丸吉彦》

笈摺 おいずり 「おいずる」ともいう。もとは修験者などが笈を背負うとき肩にあてた布片をさしたがる、のちには笈を負わなくても、袖のない肩衣のような白衣を着る風が巡礼者などに伝えられ、これを称するようになった。笈が当たってすれ、破れやすい所につけたことから、この名があるという。今日、西国巡礼や四国巡礼などでは、衣の中央に「奉納西国三十三所巡礼」「奉納八十八箇所巡礼」などと書き、左右に「為先祖代々菩提」の文字や姓名・生年などをするしたものを用いる風がある。《石田瑞磨》

老蘇森 おいそのもり 滋賀県中部、蒲生郡安土町東老蘇にある森。式内社奥石神社の森で、中山道をはさみ、昔は齋堂とした森林

で歌枕として有名である。現在は、国道八号線・新幹線が森を横断し、切り開かれて、名残りをとどめるだけである。《木村憲治》

オイタナジ Euthanasia 瀕死の傷病者が苦痛に悩んでいるときに、その苦痛を除くために安らかに死期を早める処置。《安楽死》

お市の方 おいちのかた (五七七八) 小谷の方ともいう。織田信長の妹(従妹という説もある)。はじめ近江国(滋賀県)の浅井長政の妻となつて小谷城にあり、三女(長女は豊臣秀吉の側室淀君、次女は京極高次の室、三女は徳川秀忠の室)をもうけた。長政が信長に滅ぼされたが、越前国(福井県)の柴田勝家に再嫁したが、勝家が豊臣秀吉と不和になり、ついに北庄に包圍され自殺したとき、お市も夫にしがたつて自殺した。戦国時代の女性の、悲しい運命の象徴のような生涯であった。《百瀬今朝雄》

おいちよかぶ お花札

オイツフ国立公園 —こくりつこうえん Ojizufu ポーランド南部、古都クラクフの北方にある。クラクフ・リチェンストホバ台地随一の景勝地。奇妙な形に浸食された石灰岩がそそりたち、中世紀の城や教会が点在して、ハイキングコース・休養地として人気がある。ピスラ川支流の溪谷に散在する洞穴も有名である。《渡辺一夫》

オイティプス Oidipus ギリシア神話の人物。テーベの王ライオスと王妃イオカステ(ホメロスの叙事詩ではエピカステ)の子。やがて父を殺し母と交わるという神託があり、それをおそれた父王は、赤子のくるぶしに鉄串を通してキタイロンの山中に捨てた。赤子は隣国コリントスの牧童に拾われ、コリントス王の子として育てられた。青年期に達した王子は、自分の出生を知ろうとデルフォイに神託を仰ぐが、父を殺し母と交わるという神託がある。彼はそれを避けようと放浪し、テーベに至る道で無礼な老人と供の者と争いこれを殺す。テーベ市の門の近くで旅人に謎をかけては解けぬ者を殺していたスフィンクスの謎をみごとに解いた彼は、テーベ王となり、先王の妃を得る。テーベに悪疫がはやり、これを根絶しようとして王は、はからず

で歌枕として有名である。現在は、国道八号線・新幹線が森を横断し、切り開かれて、名残りをとどめるだけである。《木村憲治》

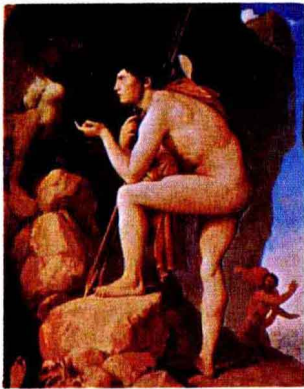
オイタナジ Euthanasia 瀕死の傷病者が苦痛に悩んでいるときに、その苦痛を除くために安らかに死期を早める処置。《安楽死》

お市の方 おいちのかた (五七七八) 小谷の方ともいう。織田信長の妹(従妹という説もある)。はじめ近江国(滋賀県)の浅井長政の妻となつて小谷城にあり、三女(長女は豊臣秀吉の側室淀君、次女は京極高次の室、三女は徳川秀忠の室)をもうけた。長政が信長に滅ぼされたが、越前国(福井県)の柴田勝家に再嫁したが、勝家が豊臣秀吉と不和になり、ついに北庄に包圍され自殺したとき、お市も夫にしがたつて自殺した。戦国時代の女性の、悲しい運命の象徴のような生涯であった。《百瀬今朝雄》

おいちよかぶ お花札

オイツフ国立公園 —こくりつこうえん Ojizufu ポーランド南部、古都クラクフの北方にある。クラクフ・リチェンストホバ台地随一の景勝地。奇妙な形に浸食された石灰岩がそそりたち、中世紀の城や教会が点在して、ハイキングコース・休養地として人気がある。ピスラ川支流の溪谷に散在する洞穴も有名である。《渡辺一夫》

オイティプス Oidipus ギリシア神話の人物。テーベの王ライオスと王妃イオカステ(ホメロスの叙事詩ではエピカステ)の子。やがて父を殺し母と交わるという神託があり、それをおそれた父王は、赤子のくるぶしに鉄串を通してキタイロンの山中に捨てた。赤子は隣国コリントスの牧童に拾われ、コリントス王の子として育てられた。青年期に達した王子は、自分の出生を知ろうとデルフォイに神託を仰ぐが、父を殺し母と交わるという神託がある。彼はそれを避けようと放浪し、テーベに至る道で無礼な老人と供の者と争いこれを殺す。テーベ市の門の近くで旅人に謎をかけては解けぬ者を殺していたスフィンクスの謎をみごとに解いた彼は、テーベ王となり、先王の妃を得る。テーベに悪疫がはやり、これを根絶しようとして王は、はからず



オイディプス アングル筆「スフィンクス
の謎をとくオイディプス」(ルーブル美術館)

も自分が父なる先王を殺し、母と交わったことを知る。一説によると、彼はそのまま王位にとどまり後年戦死、盛大な葬儀が営まれた。また一説によると、王はみずから自ら諸国を放浪し、アテネで死んだ。死後英雄神視され、その遺骨は特別の力をもつものとされた。
ホメロス・ヘシオドスその他の叙事詩人、ソフォクレスその他の悲劇・喜劇詩人たちがこの伝説を好んでとり上げている。男の子が父を拒否し母を求めた傾向を普遍的な心理的パターンであるとして、フロイトはオイディプス・コンプレックス(エディプス・コンプレックス)と呼んでいる。 久保正彰

オイディプス王 — おう Oidipus Tyrannos 古代ギリシアの劇詩人ソフォクレスの悲劇。制作・上演年とも不明。アイスキュロス・エウリピデスにも同じ題材の悲劇があるが、ソフォクレスのものがとくに有名で、人がおのれ自身を知るとはどのようなことなのか、それに焦点をあてている。テーベ王オイディプスは悪疫救済のためデルフォイに神託を仰ぐ。神託は先王殺害の犯人を追放せよと命じ、王は犯人探索に全力をあげる。王は一時執政クレオンを疑うが予言者テイレシアスの言葉、先王の王妃がかつ自身の妃であるイオカステの状況説明によって、徐々にみずからへの疑惑が高まっていく。コリントスからの使者の言、自分がテーベにはいる直前に犯した殺人と先王殺害時の酷似、自分にくだされた恐ろしい予言、ついに先王の子を捨てたヒジジ飼いの証言によって、自分こそ運命をのがれようとして運命の網に捕えられた者、

父なる先王を殺し母と交わるにいたったことを知る。絶望のあまり王はおのが目をえぐり出し、イオカステは自殺する。ソフォクレスはオイディプス王の晩年を『コロノスのオイディプス』(前四三上演)において描いている。年老いた盲目のオイディプスは、娘アンティゴネとともに諸国を放浪の後アテネに来る。オイディプスにとつて罪とは何か。彼は、神のかけたわなにおちただけであつて、自分にはなんらの罪科はないといきさす。この自負をもつて、なおも自分を利用しようとする息子ヤクレオンを拒み呪詛し、正義と人間性豊かなアテネ王テセウスに祝福を与える。最後に神との偉大なる和解がなされ、不可思議な方法で世を去る。

追手門学院大学 おいでもんがくいんだいがく 一九六六年(昭和四一)創立の私立大学だが、起原は一八八八年(明治二一)開校の大阪借行社付属小学校にさかのぼる。経済・文学部があり、語学教育に力を入れ、国際・産業界の育成を目標とする。一九七三年大学院を設置。

追手門学院大学 おいでもんがくいんだいがく 一九六六年(昭和四一)創立の私立大学だが、起原は一八八八年(明治二一)開校の大阪借行社付属小学校にさかのぼる。経済・文学部があり、語学教育に力を入れ、国際・産業界の育成を目標とする。一九七三年大学院を設置。
大阪府茨木市安威
オイノコエ Onochoe 古代ギリシアの壺の形式で、アンフォラともいふ。一般的なものである。ふつう、球あるいは円筒形の胴部に、湾曲したクローバー型の口縁部をつけ、一本の垂直の把手をもつが、胴部を人類にかたどる場合もある。多くは酒をつぐ器として用いられた。幾何学様式から黒絵式・赤絵式、末期にいたるギリシア陶器の各時期にわたって広くつくられた。とくに末期には形態が極端に引き伸ばされるなど、変り型のものが好まれ、装飾も多くなつたが、この種のものでプロコスと呼んで区別する場合がある。 友部 真

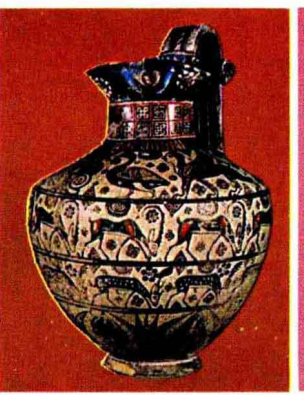
追手門学院大学 おいでもんがくいんだいがく 一九六六年(昭和四一)創立の私立大学だが、起原は一八八八年(明治二一)開校の大阪借行社付属小学校にさかのぼる。経済・文学部があり、語学教育に力を入れ、国際・産業界の育成を目標とする。一九七三年大学院を設置。
大阪府茨木市安威
オイノコエ Onochoe 古代ギリシアの壺の形式で、アンフォラともいふ。一般的なものである。ふつう、球あるいは円筒形の胴部に、湾曲したクローバー型の口縁部をつけ、一本の垂直の把手をもつが、胴部を人類にかたどる場合もある。多くは酒をつぐ器として用いられた。幾何学様式から黒絵式・赤絵式、末期にいたるギリシア陶器の各時期にわたって広くつくられた。とくに末期には形態が極端に引き伸ばされるなど、変り型のものが好まれ、装飾も多くなつたが、この種のものでプロコスと呼んで区別する場合がある。 友部 真

追いはぎ おいばぎ 通行人に襲いかかって金品・衣類を奪い去ること、またその人。律では強盗として扱う。引きはぎ・追落しともいい、ヒナギといつた例も『宇治拾遺物語』巻二にみられる。江戸幕府では、追いはぎと追落しとを区別し、前者には獄門、後者には死罪をあてている。通行人をとらえて自由を奪ったまま、金品をとり、衣服をはぐのが追いはぎであり、通行人をおどかし、つき倒し、あるいは逃げるのを追いかけて金品をとるのが追落しとされていた。しかし衣類をはがなくても、相手をとらえたまままで金品を

追いはぎ おいばぎ 通行人に襲いかかって金品・衣類を奪い去ること、またその人。律では強盗として扱う。引きはぎ・追落しともいい、ヒナギといつた例も『宇治拾遺物語』巻二にみられる。江戸幕府では、追いはぎと追落しとを区別し、前者には獄門、後者には死罪をあてている。通行人をとらえて自由を奪ったまま、金品をとり、衣服をはぐのが追いはぎであり、通行人をおどかし、つき倒し、あるいは逃げるのを追いかけて金品をとるのが追落しとされていた。しかし衣類をはがなくても、相手をとらえたまままで金品を

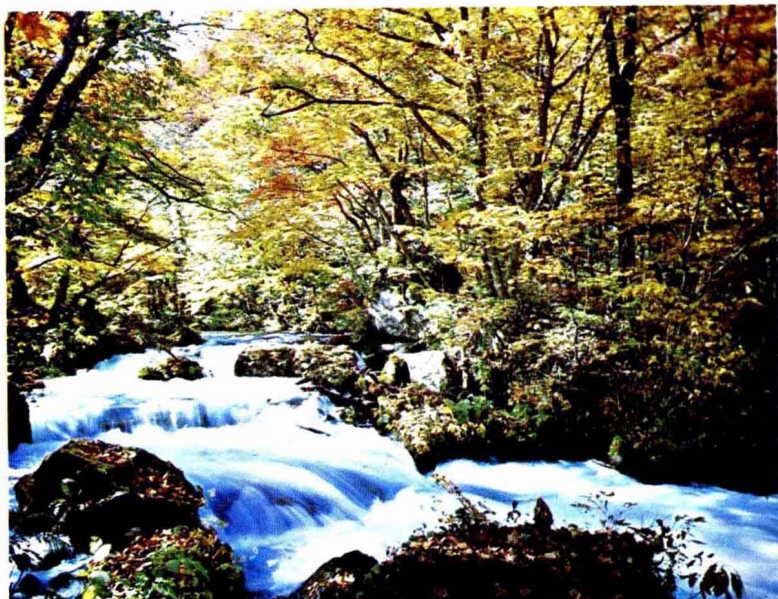
追いはぎ おいばぎ 通行人に襲いかかって金品・衣類を奪い去ること、またその人。律では強盗として扱う。引きはぎ・追落しともいい、ヒナギといつた例も『宇治拾遺物語』巻二にみられる。江戸幕府では、追いはぎと追落しとを区別し、前者には獄門、後者には死罪をあてている。通行人をとらえて自由を奪ったまま、金品をとり、衣服をはぐのが追いはぎであり、通行人をおどかし、つき倒し、あるいは逃げるのを追いかけて金品をとるのが追落しとされていた。しかし衣類をはがなくても、相手をとらえたまままで金品を

追いはぎ おいばぎ 通行人に襲いかかって金品・衣類を奪い去ること、またその人。律では強盗として扱う。引きはぎ・追落しともいい、ヒナギといつた例も『宇治拾遺物語』巻二にみられる。江戸幕府では、追いはぎと追落しとを区別し、前者には獄門、後者には死罪をあてている。通行人をとらえて自由を奪ったまま、金品をとり、衣服をはぐのが追いはぎであり、通行人をおどかし、つき倒し、あるいは逃げるのを追いかけて金品をとるのが追落しとされていた。しかし衣類をはがなくても、相手をとらえたまままで金品を



オイノコエ (左)東洋風の模様をもつオイノコエ(ルーブル)。(右)婦人の頭部をかたどつた変形のオイノコエ(ベルリン考古美術館)

奪えば、追いはぎとみなされた。現在では、恐喝・強盗、あるいは恐喝未遂・窃盗の罪をもって論ぜられる。
追ひ羽根 おいばね 羽根つき
追腹 おいばら 主君の死後、臣下の者がそのあとを追つて切腹すること。武家が起つてからの言葉で、『保元物語』に源義朝の弟が誅せられたとき、その家来が切腹しているのがみられる。はじめは戦死だけだったが、後に主人が病死してもおこなわれた。一生二君に仕えずの思想から、嗣君に仕えるさへ深しとしかつたのである。羽死(稲垣史生) オイベン Euben ベルギーの東端、ドイツとの国境に近く位置する町。人口二・六万(六〇)。一九世紀以降、フランス・プロイセン・ベルギーとたびたび領有国が変わり、さらに第二次世界大戦時にはドイツ軍に占領されたが一九四四年解放、現在は南方二五キロのマルメイトともに、オイベン・マルメイト地区を形成する。農工業がおこなわれ住民の大部分は依然ドイツ語を用いる。(辻田右左男) 追い星 おいぼし 魚類の雄の生殖期に現われる白色の小突起のこと。淡水魚のコイ科に



奥入瀬川 紅葉と繊細な流れの景観は、溪流公園と呼ばれる

いちじるしく、鱗蓋やひねなどに多数現われ、一般に婚姻色より遅れて現われ、生殖が終わると婚姻色より先に消失する。現われる位置や構造は種類によって異なっており、数回も出現消失することがある。この出現は雌性ホルモンの影響で表皮細胞が肥厚し、その表面が角質化したものであるため、去勢された雌には現われない。キンギョ・ウグイ・オイカワ・タナゴ・モロコなどが顕著であり、ウグイでは雌にもわずかにみられる。コイ科以外ではアユの雄の体表や、にも現われるほか、サケ科の一部のものも現われる。海水魚にはみられない。 《出口吉昭》

老松 おいまつ 能の曲名。脇能物。五流現行。季は春。世阿弥作。北野天神を信仰する梅津の何某(ワキ)が都から筑紫に下って、大宰府の安楽寺に参詣すると、老翁(前シテ)

が若い男(ツレ)をともなって現われ、木社として崇められている紅梅殿と松の老木について語って立ち去るが、その松陰に旅寝している何某の夢に、老松の神(後シテ)が現われ舞を舞ってみせる。安楽寺は菅原道真を葬った寺であり、九〇五年(延喜五)に神殿を建てて天満大自在天神と称していたが、明治になって寺は廃せられた。紅梅殿すなわち飛梅や老松のことについては、『北野天神縁起』や『源平盛衰記』にしろされている。しかし本曲は、道真に関する伝説よりも、めでたいものとなっている。梅と松をとりあげて、久しき春を祝ったものである。『高砂』とともに脇能の代表的なもので、御祝儀曲として常磐津その他の俗曲にも取り入れられている。なお女神姿の紅梅殿(後ツレ)を登場させる異式の演出(小書)もある。 《安藤常次郎》

オイハヤロン Oihayaron/Oihayakon ツ連、東シベリア、ヤクト自治共和国にある小さな町。インジギルカ川上流のオイミヤコン盆地に位置する。ヤクトツクの東北東五五〇キロにある。東をタスキスハルカンスキー山脈(いずれも標高二〇〇〇〜七〇〇〇メートル)に北にひらいて標高七〇〇〜七五〇メートルである。冬季、ここに寒気団がわだかまり、気温は零下七〇度近くに下がる(観測値零下六七・七度)ので、ベルホヤンスクとともに「世界の寒極(南極大陸を除く)と称せられる。 《渡辺大介》



父は数学に理解をもったカール・ベネの牧師であった。はじめ牧師になるためバール大学

で神学とヘブライ語を勉強したが、数学でヨハンネス・ヘルムホルツの注意をひき、まもなくダニエル・ベルヌーイとニコラウス・ヘルムホルツの知遇を得た。こうしてベルヌーイ家の人々の口説きもあって数学に転じ、やがてペテルスブルグ学術院にもむいた。ベルヌーイ兄弟の紹介によって、はじめ同学士院の医学部に、つづいて数学部に席を得た。六年間の研究生活ののち、ダニエルがスイスへ帰国したため、二六歳の若さで数学部の主要な地位を占めることになり、永住の決意をして結婚もしたが、一七三五年病のために右眼を失い、またロシアの政治的ふんい気いや気がさして、四〇年フリードリヒ大王の招きに応じてベルリンへ移った。その後二四年間はペルリン学術院の学部長として研究に没頭したが、後年しだいに宮廷での不人気を買って、ふたたびエカテリーナ女帝の請いを入れて六六年にペテルブルグへ戻った。ここでもな残りの目をも失い、まったくの盲目となつたが、持ち前の記憶力と強壯な精神とによってますます研究に精進し、七七歳で生涯を終わるまで仕事をつづけた。死ぬ日の午後も当時まだ新しい発見であったハインリッヒ・ルンゲ(天王星)の軌道を概算しつつ、突然「死ぬよ」という一語とともに「生きることと計算することを中止した」という。

オイラーがその数学者としての経歴を始めた年はニュートンの没年に当たり、解析幾何学・微積分学の道具立てでは整っていたが、その組織的研究はいまだではあり、とりわけ力学・幾何学の分野での十分な体系化はなされていなかった。彼は微積分学を進展させ「無限解析緒論」二巻、微積分学を創始し「積分学原理」二巻(と)、変分学を創始し「極大あるいは極小の性質をもつ曲線を発見する方法」二巻、力学を解析的にした。ほかに、

代数学・整数論・幾何学など、多方面にわたって大きな業績を残した。なかでも、三角関数の省略記号(sin, cos, tan)の案出や「オイラーの定理」などは広く知られている。天文学では潮汐論や月の運動と三体問題で摂動論の基礎を築き、物理学では弾性振動や音響学、光の波動論、色消しレンズなどの研究もある。ペテルブルグ在任中の初等数学教科書の編集、度量衡の改正なども彼の多面的な活動の一例にすぎない。ペルリン時代にフリードリヒ大王の姪に自然科学を教えるために書かれた『ドイツ王女への手紙』は、当時の啓蒙書として有名なものであり、七か国語で出版されている。 《藤村 啓》

サリヴァン著・須藤利一訳『近世数学史』(二巻、創元社)▽矢野健太郎著『数学をきずいた人々』(二巻、講談社)

奥入瀬川 おいらせがわ 青森県南部の十和田湖に源を發し百石町で太平洋に注ぐ川。全長六七キロ。湖の東端、子ノ口から焼山までの上流一四キロは、奥入瀬溪流とよばれる。焼山から下流は三木原台地をきざんで流れ、かつて新渡戸伝親子による三木原開拓の原動力となったが、今日この地域の水田耕作をきざせている。またこの川の水は電力源としても重要で、焼山には発電所(出力三万一〇〇〇キロワット)が設けられているが、風致保存のため取水はもっぱら夜間におこなわれる。下流部は相坂川ともいふ。

〔奥入瀬溪流〕青森県南部、十和田湖の東端、子ノ口から流出する奥入瀬川の、焼山まで一四キロの部分。溪流の両側は急な山地が迫り諸所に小滝がかけ、流れもときに走り、ときによどみ、これらを包むブナ・ナラ・カエデなどの原生林と相まって、とくに新緑・紅葉の美は天下に冠たるものとされる。溪流に沿って、諸所に歩行者専用の遊歩道も設けられている。十和田八幡平国立公園に含まれており、青森から焼山まで、バス二時間半。

オイラート Oyrat(Oirat) 西部モンゴル族の俗称。カルムクともよぶ。一世紀ころエニセイ上流域で半牧羊半生活をしてきたが、一七〇七年ジギスキカンに服属し四方戸に編成された。チロロス・トルグート・



花魁 喜多川歌麿が描く「松葉屋三美人」の一人「松風」

ホイト・ホショートなど多くの部族を含む。元代には朝廷に優遇されたが、その滅亡後モンゴル高原で貴族の分立抗争が激化し、東部モンゴル族(韃靼部)が衰えると勢力を拡大し、マフムード・トゴンの時代に外モンゴルを勢力下におき韃靼部を内モンゴルに圧迫した。トゴンの子*エセンは朝鮮より中央アジアに及ぶ広大な地域に威令を及ぼし、しばしば中国北辺に侵入し、明の英宗を捕える(土木の変)など中国から北虜瓦剌として恐れられた。エセン暗殺後も衰えたとはいえず外モンゴルを保持したが、ダヤン・カンの内モンゴル統一に続いてアルタン・カンの征討を受けてイルティシユ上源に圧迫され、約半世紀間離伏をしいられた。一七世紀にはいとチョロース家が台頭し、ガルタンに至ってオイラートを統一してジュンガル王国として発展するが、清の乾隆帝の征討で王国は崩壊し、部民は大殺戮を受けて衰え、イリ將軍の下に藩部に編成された。

オイラーの定理 — のていり 一八世紀のオイラーの数学者*オイラーの発見した定理。オイラーはケーニヒスベルク(カリニエングラード)に流れるプレーゲル川の七つの橋を渡る「橋渡りの問題」からヒントを得て、一筆書きの可能・不可能を調べ、奇点・偶点の考えに到達して、一筆書きが不可能の図形の典型を示した。これを一筆書きに関するオイラーの定理という。また、多面体においてその頂点の数をV、その辺の数をE、その面の

数をFとすれば、それらの間にはつねに $V-E+F=2$ という関係が成立することを証明した。これをオイラーの多面体の定理という。これら二つの定理は、現在の*トホロジの発端となったもので、その歴史的意義はきわめて大きい。↓多面体 ↓一筆書き

花魁 おいらん 吉原における上級遊女の別称。語源は明らかでないが、新造・禿が自分の従っている姉女郎を「おいらがの」とよんだのが訛ったものという。漢字は当て字で、洒落本などには姉妓・姉媚・全盛など数種の当て字がみられる。物いう花(美女のこと)の魁の意をとった花魁が後に広く使われたので、代表的文字となった。右の語源の伝承からも、専属の新造・禿をもつ上級妓に限る名称と推定されるが、花魁が尊称的美称であって職名ではないので、これに相当する遊女がどれであるかは、かならずしも明確でない。花魁の称が一般に流布した明和(二高しき)ごろは、吉原で太夫が衰滅した直後であった。これは代わった散茶の台頭と関連するらしい。その散茶は、呼出し・昼三・附廻しなどの階級を生じ、なかでも呼出しは「仲之町張り」といって張り見世をしない最高妓で、はじめはこれを花魁とよんだともいう。しかし、一般には右の散茶と、理茶の中の座敷持以上を花魁とよぶ習いであった。揚代で、呼出し(金三歩)と座敷持(金一步)とは三倍の差があったが、いずれも次の間

つきの座敷を与えられていた。従者も、番頭新造一人、振袖新造二人、禿二・三人を使い、座敷には碁・将棋・茶道具・琴などを配し、寝具も重ね蒲団であった。座敷持の次位の部屋持は、居住する一部屋だけが与えられ、禿一人を使ったが、天保(八三〇〇)ごろにはこれらの女郎を花魁とよぶように混乱を生じた。明治以後も娼妓の俗称として通用した。

↓遊女 (原島陽) オイランソウ「花魁草」 *Pilosus paniculata* L. ハナシノブ科の多年草。クサキョウウチクトウ(草

夾竹桃)ともいう。北



変形の遊女行列がある。↓花魁 (原島陽) お炒り おいらん 鳥取県一帯でよくおこなわれる保存食の一種。残った飯をさらっとするまで水洗いし、ざるに上げて天日で十分乾燥させてたくわえ、必要に応じて炒ってつく。砂糖蜜をまぶしてかわかし、あられにすることもある。材料は、ほかに、キビ・クロマメ・玄米などを用い、二、三種取り合わせで餡と砂糖をまぜて煮溶かしたなかに入れてかきまぜ、かためてさまし、おこしのようにつくこともある。玄米は、重曹を少々加えて煮たものを乾燥させてから用いることが多い、やわらかいので老人・子どもにも喜ばれる。 (多田鉄之助)

から叢生し、じょうぶで直立する。葉はふつう対生し、長楕円形で先は細くなり、長さ一〇センチ前後。花は茎の頂に円錐花序をなして多数つく。花冠は細長い花筒の上部に平開し、径約二・五センチ、五裂する。白色のほか、淡紅色から紫色などいろいろある。萼片は細くが、個々の花は短命でつきつきに落下する。耐寒性が強くじょうぶなので、どこでもつくれるが、日当たりが不十分であると花つきが悪くなる。ふつう秋または春に株分けしてふやすが、春から夏にかけて、挿芽することもできる。

俳諧では「花魁草」といい、夏の季語。 揚羽蝶おいらん草にぶらさがる 高野素十 花魁道中 おいらんどうちゅう 花魁が盛装して従者らと行列すること。道中は禿・遣手らの従者であるが、揚屋が衰滅した吉原で仲之町へ出る花魁道中がもっとも盛んであった。道中には紗綾・金襴・緞子に金銀糸を用いて趣向の模様を入れた豪華な衣裳に、髪には簪・櫛・笄を飾り二枚歯の高塗り下駄をはいて全盛を誇示した。八文字という歩き方や手の構えは遊女屋または遊女により違った。衣裳は毎日かえたり、新造や禿の衣裳に合わせたりしたが、突出しの初道中はとくに美麗であった。現在では歌舞伎の「助六」「籠釣瓶」などの舞台にみられるほか、京都旧島原遊郭の角屋で毎夜太夫道中のショーを演じ、下関市赤間神宮の先帝祭(四月二二・二五日)には

絶って分解気化させると、メタン・エチレンなどを主成分とし水素を少量含むガスが得られることは一九世紀初頭から知られていた。この熱分解法や部分酸化法は一九三〇年ごろから都市ガス製造に応用され、石炭ガスや天然ガスに代わるものとして、原油・重油・ナフサなどを熱分解して高熱量オイルガスを(每立方尺八〇〇〜一五〇〇キロカロリー)を発生させ、低熱量の水性ガスなどに混合して用いられるようになった。さらに原料油を接触分解して水素・一酸化炭素を多く含むガス(每立方尺四〇〇〜五〇〇キロカロリー)を効率よく発生させる接触分解法も発達してきた。オイルガスは石炭ガスに比べ設備費が安く、目的に応じたガスが容易に得られるため、最近の石炭から原油へのエネルギー転換とともに急速に普及し、都市ガスの中で大きな位置を占めている。(加藤勇之助)

オイルガス oil gas 一般に石油の熱分解により得られるガスを総称するが、とくに大都市ガスを目的として製造されるガスをいう。石油系の油を五五〇〜六〇〇度で空気をさらされる懸架装置(サスペンション)用のグリニャーなど。↓潤滑油

オイルサンド oil sand 原油を含んでい
る砂または砂岩のことでタールサンドまたは
油砂ともいう。もともと含油砂岩の意味であ
ったが、のちには油層中に存在する原油を含
む堆積岩(たとえば凝灰岩)などをすべて
の岩石の名称になった。カナダのアルバータ州
にはとくに大量に存在する石油資源(原油換
算で可採埋蔵量約五〇〇億キリットル)であ
り、従来の原油に代わる新しい資源として、
その開発が期待されている。〈加藤房之助〉

オイルシェール oil shale 石炭・石油の
産出地帯に広く分布する黒灰色または褐色の
水成岩で油頁岩ともいう。浮草・藻などの水
生植物が岩石と密に混合して石炭化されたも
ので、ケローゲン Kerogen という有機物を
五〜二〇%含有するが、灰分が三〇〜六〇%
と多いので発熱量は低く、一キリ当り一五〇
〇〜二六〇kcalである。含油量の多いものは
そのまま燃料とするが、ふつうはこれを乾
留して得られる頁岩油の製造原料とする。オ
イルシェールを三五〇〜五五〇度で乾留する
と有機物は分解して、ガス・コークス・頁岩
油が得られる。頁岩油は外観は石油に似てい
るが、不飽和炭化水素・硫黄・酸素・窒素な
どの含有量が多いために石油の代用とするに
は、さらに高度の処理を必要とする。しかし
石油資源の少ない国では頁岩油工業が存在し
ており、たとえば中国の撫順では一九三〇年
以来年間数十万tに及ぶ頁岩油が採取されて
いる。またアメリカ・イギリス・フランス・
スペイン・カナダなどでも有望な資源として
広く研究されている。〈加藤房之助〉

オイルシャンプー oil shampoo シヤ
ンプーの一種。シャンプーのなかに油性の原
料を配合したものをいう。頭髮のよこれをお
としたあと、毛の表面に脂のうすい膜をつく
り保護する目的でつくられたもので、ときに
は脂性原料と同じ効果をもつ脂肪酸アルキロ
ールアミドを配合する場合もある。染髪した
時や、毛・頭皮の乾燥した人は使用するとよ
い。〈真野 博〉

オイルスイッチ oil switch スイッチ
の刃と刃受の部分が油中に入れられたスイ
ッチで、主として高圧配電線路にとりつけら
れる。したがって電柱の上に多く見られる。配

電線の区分・故障部分の切り放しなどを目的
とする。線路故障時の大電流を切る能力はな
いが、常時の定格電流は切ることができる。
電圧は三〇〇V専用、六〇〇V専用、二種、
定格電流は一〇〇、二〇〇、三〇〇Vがあり、
開閉は手動でおこなうのがふつうである
が、電磁石を内蔵し、遠方から電氣的に操作
できるようにしたものもある。〈磯部直吉〉

オイルステイン oil stain ホイル油や
乾性油に、油溶性染料を溶解した着色剤(ス
テイン)の一種で、色調としては茶・焦げ茶・
黒などが多い。油性ステインともいう。おも
に、木材に透明な塗料で仕上げをする場合の
下地に用いるが、耐水性があるので、湿度の
高い部屋や、水を多く使う場所の塗装に用い
られる。〈岸谷孝一〉

オイルバス 〆首児(乳児の入浴)
オイルバーナー 〆バーナー
オイル焼き 〆やき 牛肉を鉄なべでサラ
ダオイルを敷いて焼きながら食べる料理。取
合せて、長ネギ・ピーマン・シタケなども
オイルで焼いて添えながら食べるとよい。薬
味は、おろしダイコン・ボンズ・さらしネギ
など、何でもこれにしょうゆで味をつけなが
ら食べる。なべは、すきやきなべを利用して
もよく、焦げないように手早くかえしながら
食べるのがよい。〈東畑朝子〉

オイロロアイランド Eyrolle アイクシュテッ
トはヨーロッパ型(白色人種)の主人種にこ
の語を使用した。狭義のコカソイドとほぼ
同義。〆コカソイド
追分 おいわけ 街道の分岐点をいう。昔、
駄牛や駄馬を用いたころ、分岐点でこれを追
い分けることからきたものである。主
要街道と脇街道の分岐するところにも用い
られ、交通の要地として集落が発達した例が
多い。たとえば、信州の追分(長野県軽井沢
町)は中山道と北国街道の分岐点に発達した
集落である。そのほか、東京都文京区の追分
は中山道と日光街道の分岐点、新宿区の追分
は甲州街道と青梅街道の分岐点、また北海道
の追分町は室蘭本線と夕張線の分岐点にあ
っている。〈矢嶋仁吉〉

和(二八)町制施行。室蘭本線と夕張線の分岐
点。市街地は馬追丘陵、夕張山地との間の
断層角低地、安平川の流域に発達した。戸数
の約半分は国鉄関係の従事者。米・ムギ・ア
スパラガス・トウモロコシ・牛乳などを多く
産する。人口五二八六。〈岸谷 孝一〉

追分節 おいわけぶし 民謡の曲名。元来「追
分」とは主要街道が二つに分かれている地点
の名称で全国に無数に存在するが、唄の名と
しては北海道の「江差追分」がもっとも名高
い。信濃の浅間山のふもと中山道と北国街
道の分岐点にあった「追分」(長野県軽井沢
町)で、江戸時代に宿屋の歌妓たちが、お客
へのサービスにその付近の馬子唄を三味線に
のせて酒の座敷でうたっていた。これが最初
の「追分節」で、それが越後を経由して北海
道の松前に運ばれた。そして、ニシン漁の根
拠地として、大ぜいの出稼者が集まり、酒
と女と歌に郷愁を慰めていた江差の町に「追
分節」が定着し、信濃の「追分節」とは違っ
たものができた。北海道の追分の特色は、信
濃の追分の節を本歌とし、それに前唄と後唄
をつけた点にあり、また最初は「信濃追分」
と同様、三味線をあしらいに入れていたが、
後には尺八だけ伴奏にして演奏するようにな
った。また三味線入りの「追分三下り」は聲
女や座頭の手によって東北一帯から北海道に
わたり「南部三下り」「津軽三下り」「松前三
下り」「江差三下り」の名で呼ばれ、主とし
て座敷の騒ぎ唄としておこなわれ、他に「追
分」の名で、盆踊りの歌ともなっている。↓
江差追分

追分羊羹 おいわけようかん 静岡県清水市の
名物。追分羊羹本舖創製。原料はふつうの蒸
しようかんと同じであるが、配量のぐあいや
流し方・蒸しかぐんなどがある。小麦粉・
砂糖・赤あずき・くず粉などの材料を柔らか
めに竹皮に流し、横に三つ折りに、さらに
縦に三つにたんで多少長めに蒸しあげたも
の。〈守安 正〉

王 おう 一般に国家の最高主権者を意味す
るが、包括的に定義することは困難である。
歴史的には部族国家の成立とともにあらわれ
る。古代の王は立法・司法・行政などの国家権
力をすべて掌握するほか、軍事上の統帥権を

もち、また宗教的には神格化される。古代オ
リエントの場合がこれに当たり、エジプト王
国のファラオはその典型である。しかしギリ
シアや共和政以前のローマの都市国家では、
王は古代オリエントの場合と異なり、同等者
中の第一人者にすぎず、政治は民族の長老会
と相談しておこなわれ、選挙王制の形がとら
れたが、しだいに世襲制となる傾向が多かつ
た。しかしドイツのように土着諸侯の勢力の
強いところでは、選挙制度が一六世紀まで続
いた。また古代ローマが大征服国家をつく
り、オクタヴィアヌス以後はローマの元首(ア
ウグストゥス)はカエサル Caesar またはイ
ンペラトル imperator の称号が用いられた。
カエサルは初代元首がカエサル家に属するこ
とからつけられ、カエサル家以外から出るよ
うになってもカエサルの称号は残り、皇帝を
意味するようになった。ドイツ語のカイゼル
Kaiser ロシア語のツァーリ tsar (sar は)
の語に由来する。インペラトルは最高軍司令
官の称号であったが、ローマの皇帝が称号と
して用いたので、皇帝を意味するようになり、
英語のエンペラー emperor フランス語の
アンペルール empereur はこれに由来する。

【ヨーロッパ】ローマの用法で「王」(キン
グ king)といわれるのは、個々の部族や都市
国家などの主権者であり、皇帝は大征服国家
の元首で王の上に位した。この区別は中世か
ら近代までうけつづけた。西ローマ帝国滅亡
後は、東ヨーロッパでは東ローマ(ビザンテ
イン)皇帝により、さらにロシア皇帝に引き
つがれた。西ヨーロッパではカトリシズムの
理念と密接に結びつき、カール大帝以後のフ
ランク王国、次いでオットー一世以後の神聖
ローマ帝国の首長という形で維持された。神
聖ローマ帝国とロシア帝国以外の他の諸国の
首長はいずれも王であったが、一時的にはナ
ポレオン一世のように皇帝を称した場合もあ
った。またイギリスのように、本国では王と
称し、植民地では皇帝と称する場合もある。

近代以後も、民族国家の統合の象徴として王
号が用いられたが(ギリシア・ルーマニア・
ブルガリアなど)、人民主権にもとづく立憲
政治の発展にもなつて、王政は廃止された
り、政治的意義を失つて、たんに象徴的存在

の

となつてゐる。 (五十嵐久仁平)

〔中国〕中国で「王」と称した現存する最古の例は、殷王朝の諸君主である。殷の王は、農作の豊凶、外敵との戦争の勝敗、狩猟の獲物の多少などについて、亀甲や獣骨を焼いてできたヒビの形によつて占ひ、その占ひの内容を甲骨片の上に刻させた。これによつて殷の王のすべての行動は「帝」とよばれる至上神の支配下におかれていたことがわかる。そのような神の権威のもとに、殷の三〇代にも及ぶ王は、華北各地に散在する部族の国家に対して、ゆるやかな統治をおこなつていたのである。文献によると、殷の前には夏という王朝があり、それにも歴代の王がいたとされるが確かではない。また、さらに夏よりも以前に、三皇・五帝という「皇」や「帝」がいたという伝えもあるが、これらは後世、理想の君主を太古に仮託してつくられた説話にすぎない。

殷に代わつた周の時代には、周の「王」は封建された諸侯たちの宗家(総本家)の地位を占めるようになった。春秋時代に、中華の諸国が夷狄に対抗して同盟する場合に、周の王室を尊ぶこと(すなわち尊王)を旗じるにしたのは、その名残りである。しかし前五世紀以後の戦国時代になると、「戦国の七雄」とよばれたような有力な諸侯は、富国強兵化政策を推進していく中で、相次いでみずから王と称するようになった。周の王室の権威が、実力ばかりでなく精神的にもまったく失墜してしまつたのである。

戦国列強の抗争は、やがて秦の統一によつて終つたが、秦王政はそこで、従来の「王」に代わつて、新たに「皇帝」の称号を採用した。そこで彼は始皇帝とよばれる。しかし皇帝の出現によつて、中国で王号が消滅したわけではない。皇帝の一族や功臣が王に封ぜられることは、漢から清に至るまで二〇〇〇年間、歴代王朝でおこなわれた。ただし彼らは、王としての榮譽と特定の権限を与えられはしたものの、その実質は国家としての独立とはほど遠く、あくまでも皇帝権力に從属するものにすぎなかつた。中国周辺の蛮夷の君長も王を称することを認められたが(倭王)、なかには異民族独自の君長号を捨てなかつた

ものもある(匈奴の単于、突厥の可汗)。また王朝に対して反乱を起こした者が、みずから王を称した場合も多い(太平天国の天王洪秀全)。

「皇帝」の出現によつて、実際上は「王」の格が下がつたが、「王道」という思想は旧中国の政治思想の骨格をなしてきた。その基本を形づつたのは戦国時代の孟子・荀子らの儒家だが、孟子によると、民の生活を安定させ、民のよい素質を生かす君主こそが、天から命ぜられて「天子」となる。もし君主が仁義を無視した政治をおこなえば、天は彼から命を取り上げて、他の有徳者にあらためて命を下すことになる、という。この易姓革命を肯定する王道論を、儒家は皇帝に対して適用した。皇帝は天から受命した天子である。皇帝は中華の君主たるのみならず、蛮夷もその徳を慕つて来朝すべき存在である。「王」という字は、天・地・人をあらわす「三」と、それを貫通する「一」より成る、といつた式の説明が、漢以後、王朝時代を通じておこなわれた。中国の皇帝は、称号は「皇帝」だが、その政治の理想は「天子」として「王道」を実現することにあつた。 (小倉芳彦)

応安 おうあん 北朝の後光厳・後円融両天皇の代の年号。一三六八(七五年) (応安一) (八)。病患・天変地異により一三六八年(貞治七)二月二十八日改元、応安元年となり、一三七五年二月二十七日に至り改元、次の永和元年となる。出典は『毛詩正義』に、「今四方既平、服王国内、幸応安定」などである。 (小野信三)

応安新式 おうあんしんしき 連歌の式目。「応安の連歌新式」の略。一三七二年(応安五)一二月、二条拱政良基の編修、救済の校閲により成立。鎌倉期には本式・新式、建治・弘安の新しい多数乱立していたが、南北朝になり、救済・良基の協力による改訂が進み、二次の改訂をへて、この新式に達する。以後部分的追加はあるが、対立する式目も生まれず、長く連歌の規範となつた。内容は連歌百韻における題材・用語について、使用の回数・間隔を制限し、四季・恋・雑の句数を按分するなど、百韻構成に節度ある変化の妙をもたらし、洗練された美的秩序の保証されるよう

考察された法則である。 (金子治郎)

〔群書類従〕連歌部所収「連歌新式追加並新式今案」(五三三、六)統群書類従完成会、(五五四)群書類従刊行会

王安石 おうあんせき (一〇三一—一〇八六) 中国、北宋中期の政治家。撫州臨川(江西省)の人。一〇四二年、進士に合格すると、みずから求めて地方官を歴任し、中央の要職への誘いもことわつて地方政治の体験をかきねた。五八年に仁宗に提出した『万言書』は彼の政治への抱負と具体的な政策が名文で述べられており、政治家として名を高めた。神宗が即位し、六九年、参知政事(副宰相)に抜擢されるとすぐに制置三司条例司を設けて、かねてからいっていた新政策実施のための審議機関とし、翌年、同中書門下平章事(宰相)になった。六九年から青苗法・保甲法・募役法などの新法を相次いで実施していった。約八



年間、宰相の地位にあり、保守派の強硬な反対とたたかいたが、新法の遂行に政治的生命をかけた。危機に瀕していた赤字財政の立て直しに成功し、七六年、引退して鍾山(江蘇省江寧県)に居をかまえた。彼を全面的に支持していた神宗が没すると、政権は旧法党の手にうつり、心血をそそいできた新法がつぎつぎと廃止されていくのを聞きながら、六歳で没した。儒学者・詩文家としてもすぐれ、唐宋八大家の一人に数えられ、『臨川文集』『周官新義』『唐百家詩選』などの著書がある。 (柳田節子)

野寺郁夫著『王安石』(丸毛・人物往来社) 王安石の新法 おうあんせきのしんほう 北宋、神宗の時、宰相王安石のおこなつた革新的な諸政策。北宋の文治主義の政治は、仁宗朝を頂点として、国内的にも対外的にもその弱点をあらわしてきた。科擧制の拡充にともなう官僚の増加、遼や西夏への多額の歳幣、質の低下を補うための軍隊の増大など、すべては

財政支出の膨張となつた。国家財政は危機に直而し、大土地所有の発展にともなう社会の矛盾もあらわになつてきた。神宗の全幅の信頼をうけた王安石は、この危機打開のために、一〇六九年から、つぎつぎと新法を実施した。(1)青苗法は、農民に対する政府の低利の貸付け。農民は端境期や凶作、冠婚葬祭などの臨時の出費には、地主から借金をする以外に道はなく、その利息は一〇割にも達する高利で、返済不能となる者が多かつた。このような農民を地主の高利貸しから救ひ、同時に政府の財政収入の増加を目的としたもので利息は二割とした。貧富に応じて貸付額が決められていた。(2)市易法は、青苗法の都市版と考えればよく、都市の大商人の高利貸しに苦しみ中小商人への政府の低利の貸付けである。(3)保甲法は、農村において、一〇家を保、五〇家を大保、五〇〇家を都保に編成して、それぞれに長をおき、治安組織とする。ともに、農閑期には軍事教練をおこなつて兵農一致とし、弱体化した備兵制にかわつて、軍事力の強化と養兵費の節約とをあわせてねらつた。(4)募役法は、地方行政末端の職務を負担する無償の職役・差役法を雇募制とした改革である。一般民戸からは免役銭、それまで職役免除の特権を与えられていた官戸・寺観などからも助役銭を徴収し、その収入で政府が人を雇ひ、専門に税糧の徴収・保管・輸送の任に当たさせた。

このほか均輸法・方田均税法・保馬法・倉法から学校制度に至るまで、政治の全分野にわたる一大改革で、国家財政の再建に効果をあげた。しかし、これらの新法は、いずれも官僚大地主およびそれと結託している大商人の利益と真に向かひ対立するものであつたため、強硬な反対に会い、神宗が没して政権が旧法党の手にわたると、たちまちにしてやめられた。その後、北宋末まで、政権は新旧両法党の間ではげしく争われるが、王安石をはじめ、新法党には江南出身官僚が多く、以後、華北にかわつて江南官僚の政界への進出が目だつてきた。 (柳田節子)

漆俠著『王安石变法』(丸毛・上海人民出版社) J.T.C. Lui (劉子健): Reform in Sung China—Wang An-shih (1021—



王維 「長江積雪圖卷」(宋代の模本)

1086) and His New Politics (1959, Harvard East Asia Studies)

王維 おうい(？允允？一？) 中国盛唐の詩人・画家。字は摩詰、太原(山西省)の人。九歳で文を書き、書や音楽にも通じていた。弟の縉とともに早くから文名が高く、とくに岐王の知遇をえ、七三一年進士に及第、太常丞となる。のち、涪州(山東省茌平県)の司倉參軍に左遷されたが、七三四年右拾遺に抜擢され、監察御史・左補闕、庫部郎中を歴任、吏部郎中から給事中となる。安祿山の乱の際に、反乱軍の捕虜となり脅迫されて仕えた。乱平定後その罪をとわれ、給事中の助力や反乱軍中につくった天子を憶う詩が認められ罰も軽く、太子中允に降され、やがて太子中庶子から中書舎人、給事中を経て尚書右丞にまでなった。そのため王右丞ともいう。王維は六朝時代の宮廷詩人の伝統をうけついで詩人といわれ、都の貴族社会でもてはやされ尊敬をうけた。その詩は山水自然の静かな趣を詠じたものにすぐれた作品が多く、とくに藍田(陝西省長安南東の県)の別荘、輞川荘での一連の作が有名。孟浩然、韋応物、柳宗元とともに王孟韋柳と并称され、唐代白

然詩人の代表者と目されている。また彼は敬虔な仏教徒でもあり、詩中に仏教思想の影響がみられるのも特色である。『王右丞集』二八巻などが現存する。 (佐藤 保)

画業は山水画を得意とし、水墨を主体としたが、金碧輝映画も手がけ、画風も多様であったと考えられる。純情高潔な性格をもち、濁世をきらって自然を愛しむ態度など、南宋文人画の祖といわれるゆえんである。宋の蘇東坡は「詩中に画あり、画中に詩あり」と評している。当時は長安諸建築の障壁山水画や滄州図「輞川図」などが知られていたが、確実な遺品は、現存していない。(村重 寧) 小林太市郎著『王維の生涯と芸術』(一九四四、全国書房)

横位 おうい 子宮腔内における胎児軸と子宮縦軸との関係を示す胎位の一つで、縦位に対するもの。胎児軸と子宮縦軸が直角に交わる狭義の横位と、斜めに交わる斜位が含まれる。ごくまれなもので、妊娠中に発見されても分娩時までに縦位(骨盤位か頭位)に変わってることが多い。しかし、破水して横位のまま分娩が進む場合は注意を要する。原因は多産婦・羊水過多・双胎など胎児の移動性が大なる場合、および子宮奇形や胎児下降障害などに由来する。(野嶽幸雄)

押韻 おういん 類音または同音を、行首・行末・行間休止と行末、などに反復して語調を整える修辭法(音位律)。行(句)の最初の音におこなわれるものが頭韻、最後の音におこなわれるものが脚韻(狭義の押韻)である。頭韻は、「淑き人のよしとよく見てよし」と言ひし吉野よく見よ」のように日本の詩歌に多いだけでなく、古い英詩の基調ともなっていた。また、「白髪三千丈、緑愁如箇長、不知明鏡裏、何処得秋霜」の長と霜とのような脚韻は、西洋でもゲーテ・ボードレールらの詩のほとんどにおこなわれている。しかし、国語の性格上、日本の詩歌に脚韻は無用で、正岡子規らが試みたが失敗した。日本語の場合、次のような子韻や母韻が多い。「パケツ」と「シート」のように語尾の子韻だけ同じものが子韻(コンソナンス)であり、「ともす」tonosuと「ほどく」hodoku 英語の baby と lady のように、強勢音節(および

それにつづく弱音節)の母音だけ同じで子音を異にするのが母韻である。それらは目立たないが西欧詩でも微妙な作用を注目されている。「歩くすがたは、ユリの花」において、Ewa と hana とは母韻をふんでいるのである。また詩をはなれても、二(以上の)語の音声関係で、花・家、gelo, stelo, star, after lounages brent, kent star, after などとはそれぞれ押韻している。

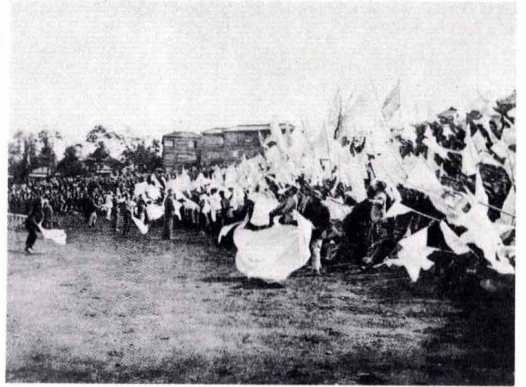
一方、シェイクスピアの劇詩やミルトンの叙事詩はほとんど無韻詩(フランククリバース)であり、現代では、押韻がしだいにすたれていく傾向にある。韻律 (大和資雄) 王引之 おういんし(七六一一八三四) 中国清の訓詁学者。字は伯申、曼卿と号す。諡号は文簡。王念孫の子で、江蘇省高郵の人。挙人・進士に合格し、大理寺卿・視学・礼部尚書などを歴任してすこぶる治績をあげた。幼時より父の学業をついで、文字音韻の学問、いわゆる小学をきわめ、かたわら九經三伝や秦漢の文献を広く涉獵・研究して、語の脱落を糾し、その意義を明らかにした。その方法はひょろろ科学的で、その学は父のそれとともに実事求是の学といわれ、また戴震・段玉裁および父と並んで戴段二王の学といわれた。主著に「経伝釈詞」一〇巻、「経義述聞」三二巻などがある。(波多野太郎)

奥羽越列藩同盟 おうえつれつぱんどうめい 戊辰戦争時結成された東北・北陸諸藩の反政府軍事同盟。維新政権は奥羽鎮撫総督九条道孝を仙台に派遣し仙台藩に会津征討を命じたが、仙台藩は米沢藩とともに会津藩救援に乗り出し、一八六八年(慶応四)閏四月一日、仙台・米沢両藩主および盛岡・二本松・福島など一四藩の重臣が白石城に集まり、会津藩救免の嘆願書を提出。嘆願書が却下されると、同盟藩は鎮撫総督府に反抗の態度を示し、五月三日さきの一四藩に、秋田・弘前・新庄など一藩が加わり奥羽越列藩同盟が成立した。まもなく、新発田・長岡など北越六藩もこれに加わった。同盟は会津藩救援からすんで、薩摩藩を討つことを明らかにし、白石に公議府、福島に軍事局を設け、会津・庄内二藩とともに朝廷軍に対抗した。しかし同盟諸藩が敗れ、秋田・弘前藩が同盟を離れ、

九月仙台・米沢藩が降伏すると同盟は自然に消滅した。同盟に参加した藩の多くは領地を削られ、その中心となった人々は処罰された。(井上 勉)

奥羽山脈 おうえつさんみやく 東北地方の太平洋斜面と日本海斜面とを分ける背骨をなし、南北につらなる山脈。古生層や花崗岩を基盤とする第三紀の山脈の上に、那須火山帯がかさなり、北から忍野・八甲田山・岩手山・栗駒山・船形山・蔵王山・吾妻山・磐梯山などの火山を噴出している。東北地方の東西交通をさまたげ、生活・文化を両断、鉄道は低い峠をぬって花輪線・田沢湖線・北上線・陸羽東線・仙山線・奥羽本線・青越西線が通じる。火山地形・高山植物や温泉群、カルデラ湖が展開、学術的な素材に富み、とくに十和田湖・八幡平・吾妻山・磐梯山一帯は国立公園として観光客をひきつけている。山林資源や金属鉱床が多く、またカルデラ湖の十和田湖・田沢湖・猪苗代湖は日本屈指の電源湖をなし、河川のダム貯水池とともに灌漑・発電に大きな役割を演じている。また山脈中にはかつて先住民族の蝦夷が北進する大和民族と抗争した当時のチャシ(館)跡や土器などの遺跡も多い。(川本忠平)

奥羽地方 おうえつちほう 本州最北部の地方。陸奥・出羽の総称で、青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島の六県からなる。東北地方奥羽本線 おうえつほんせん 東北本線の福島から奥羽山脈の西に沿って米沢・山形・秋田・弘前をへて青森に至る四八七・四の線のほか土崎・秋田港間一八・、津軽新城・東青森間一〇・二の各貨物支線を含む四九九・四の国鉄線。一八九四年(明治二七)弘前―青森間奥羽北線開通。一九九年福島―米沢間奥羽南線、つづいて工事は進められ一九〇五年(明治三八)山形―秋田間の開通により全線開通し、奥羽本線となる。また土崎・秋田港間は一九〇七年(明治四〇)臨港貨物輸送に、津軽新城―浦町間は一九二六年(大正一五)青森操車場設置に伴う東北・奥羽両線の短絡のために建設され、六八年東北本線の路線変更にもなれ、津軽新城―東青森となった。この線は勾配区間やトンネル・橋梁が多く、冬は豪雪・寒冷地帯で保守面の苦勞が多



応援団 一高対三高の野球試合で、白旗をふって応援する一高応援団(明治末年)

〈神田順治〉

応援団 おうえんだん スポーツのゲームで味方の選手を励ますために設けられた団体。一般に応援団とよばれているのは、応援指導部のことで、これが一般学生を指揮して応援団を形成すると考えられる。スポーツ試合のほかでも、もっとも応援に適しているのは野球であろう。それは野球のゲームそのものがインターバルが長いから、応援がしやすく、かつ応援の効果があるからである。この事実と日本人の野球好きがいっしょになり、日本の応援団は野球中心に発達してきたといえる。ラグビー・サッカーなどは、試合がスピーディーなため、応援がしにくく、したがって盛りあがらない。アメリカのアイビリーリーグの応援などは個人が自発的におこなっているものが多く、組織されたものとはいえない。したがってこれを応援団とよぶかどうかには問題がある。日本では自校の運動部の競技を応援するために組織されたのが起原である。正式の応援団を結成して応援をした競技会は、一八九〇年(明治二三)に隅田川で挙行された一高と東京高商のボートレースがはじまりである。一高は白旗、浅草側、高商は赤旗を立て

向島側に舟をならべて応援団が対抗した。この情景を「屋島・壇ノ浦の戦もかくやと思われたり」と新聞が報道したほど双方の応援団がエキサイトしたため、両校申合せのうえ以後当分レースが中止された。応援団を考慮して一九〇六年(明治三九)秋、早慶野球試合が中止に至るいきさつと通じるものもある。

応援団が日本のスポーツ界にクローズアップされたのは、明治末年から開始された一高・三高の野球の対抗試合、一九二五年(大正一四)秋に復活した野球の早慶戦に、多数学生の組織だった応援団の応援がおこなわれたことが大きく影響している。とくに早慶戦には有名な「リンゴ事件」といわれた応援団のトラブル(九三秋)があったりしたが、応援の方法には各種のくふうがなされ、各種の楽器を使用するプラスチックバンドを編成してスタンドにすわらせるようにしたのは、太鼓しか使わなかった昔と比べて格段の進歩である。

昔の応援団に比べて、今日の応援団は母校愛の表現はともかくとして、スポーツのゲームを観賞するといった点で進歩がみられる。しかし応援団の「質実剛健」という過去の美風を「野蛮」や「暴力」と誤解しているためか、最近応援団が相次いで世人のひんしゅくを買う事件を起こしたことは、応援団のあり方に反省の必要がある。〈神田順治〉

驚鷲伝 おうおうん 中国唐代の伝奇小説。元稹の作。「会真記」ともいう。張生と鶯鶯との恋の悲劇を描いている。唐の貞元年間、兵乱にあつた崔一家を救った張生は娘の鶯鶯に恋する。侍女の紅娘を通して思いを打ち明けた張生は返事に「月を待つ西廂のもと」の詩を受けとり、西廂に忍び待つ。しかし現われた鶯鶯はきびしく彼の非礼をたしなめた。数日後の夜、突然鶯鶯は張生をたずね、喜びの一夜を過ぎ、二人の恋は始まる。その後、科挙受験に長安へ出かけた張生は、鶯鶯から切々たる愛の手紙を受けとりながら、自分にはこのようにすぐれた女性を愛する資格はないと交わりを絶つてしまう。のち、すでに嫁した鶯鶯は、ふたたび会おうとした張生に詩を返しただけで姿は見せず、ついに消息も絶えるという物語である。この小説の影響は大きく、この物語にもとづいて、宋に「商調

蝶恋花詞」、金に董解元の『西廂記諸宮調』、元に来王実甫の『西廂記』などがつくられた。ただし結果は団円にかえられた。〈中島敏夫〉

前野直彬訳『中国古典文学全集』 六編 唐・宋小説集(一九五九平凡社)▽同編訳『唐代伝奇集』 東洋文庫(二〇三三平凡社)

王恩茂 おうおん(？) 現代中国の軍人・政治家。江西省の人。一九四九年、中国共産党中央新疆分局書記として新疆省人民政府委員、第一野戦軍政治委員を併任。五四年の第一期全国人民代表大会には新疆省代表として出席した。五五年に中共新疆ウイグル自治区委員会第一書記に就任して、翌五六年の中共八回大会では「新疆ウイグル自治区内各民族の工作状況」について報告した。六五年、国防委員会委員・中共中央西北局書記処書記となる。文化大革命のなかで批判をうけたという説もあるが、六七年末に公式の席に姿をみせた。〈加藤祐三〉

桜花 おうか 旧日本海軍の使った特攻用小型ロケット機。全長六・九尺、頭部に六〇〇(八〇〇)キの爆薬をつめた体当たり専用機で、大型攻撃機の腹部につり、敵艦の上空で発進・突入するという構想であった。一九四四年(昭和一九)末に一号機が完成、つづいて約八〇〇機がつくられ、四五年三月以後、九州・沖縄方面に出勤したが、被害の大きいわりに、これという戦果はなかった。(航空自衛隊入間基地で撮影) 〔関川栄一郎〕

黄化 おうか 植物において緑色の葉がおもに金属元素の欠乏によって黄白色に変わる現象。黄白化ともいう。欠乏症状は金属の種類によってかなり特徴的である。鉄の欠乏はもっとも速効的で、若い葉でみと、葉脈と葉脈との間の部分から黄化がはじまる。葉はすぐには死なないため、黄白色の葉が枝に固まって残る傾向がある。正常の葉では鉄のほとんど全部が葉緑体に含まれ、たんばく質や葉緑素の合成に関係する酵素の成分となっているので、欠乏の影響は広範である。マグネシウムが欠乏すると、茎の下方の葉からしだいに黄化し、やがて枯死する。マグネシウムは葉緑素の構成元素であるから、これが欠乏すると葉緑素の合成がとまり、光合成もできなくなるためである。銅やマンガンが欠乏しても黄白化が起こるが、その詳しい仕組みはまだよくわかっていない。窒素が欠乏すると葉は全面的に淡色になる。これはアミノ酸やたんばく質の合成が衰えて葉緑素の生成もとまるからである。〔林孝三〕



象。黄白化ともいう。欠乏症状は金属の種類によってかなり特徴的である。鉄の欠乏はもっとも速効的で、若い葉でみと、葉脈と葉脈との間の部分から黄化がはじまる。葉はすぐには死なないため、黄白色の葉が枝に固まって残る傾向がある。正常の葉では鉄のほとんど全部が葉緑体に含まれ、たんばく質や葉緑素の合成に関係する酵素の成分となっているので、欠乏の影響は広範である。マグネシウムが欠乏すると、茎の下方の葉からしだいに黄化し、やがて枯死する。マグネシウムは葉緑素の構成元素であるから、これが欠乏すると葉緑素の合成がとまり、光合成もできなくなるためである。銅やマンガンが欠乏しても黄白化が起こるが、その詳しい仕組みはまだよくわかっていない。窒素が欠乏すると葉は全面的に淡色になる。これはアミノ酸やたんばく質の合成が衰えて葉緑素の生成もとまるからである。〔林孝三〕

横隔膜 おうかくまく 哺乳類の体腔にあつて肺や心臓を含む胸腔と、肝臓・胃・腸などを含む腹腔とを区画する筋肉性の膜。哺乳類の特徴の一つで、比較的下等なカモノハシ・ハリモグラなどにも、横隔膜は呼吸中枢が二酸化炭素によって刺激されると収縮し、胸腔を広げ、呼吸運動を活発にする。ネズミの横隔膜筋肉は十分に薄いため生組織切片として生体外での実験に用いられ、インシュリンに反応してグリコーゲン合成の促進が証明されている。〔石田孝三〕

人体の横隔膜は円形の筋板で、胸郭下部を形成する腰椎・肋骨・胸骨より筋質をもつており、中央部は臍膜で臍中心とよばれ、これに集合した筋線維が付着する。腰部・肋骨部・胸骨部に分けられ、大動脈・食道・下大静脈を通す大動脈裂孔・食道裂孔・下大静脈孔がある。臍中心は胸腔に向かって高まり、二隆起のドーム状をなし、右側隆起は左側より高い。横隔膜の高さは呼吸運動によって決定され、吸気時には低く、呼気時には高い。また、幼年では高く、年とともに低くなる。臍中心の上方には心臓を隔てて心臓、その両側には胸膜を隔てて肺が位置し、下方には腹膜を隔てて肝臓・胃・脾臓・腎臓・副腎がある。横隔膜の運動は、第四頸神経の

王冠



聖エドワード王冠 (イギリス)



帝国王冠 (イギリス)



オットー大帝の王冠 (神聖ローマ帝国)



ルイ14世の王冠 (フランス)



「ナポレオン」1世の戴冠式(部分)より タビッド画 ルーブル美術館

前枝から出る横隔膜神経によって支配され、これがおもに動くときは腹式呼吸となる。妊婦や腹腔に液のたまった患者では横隔膜の運動が妨げられ、肩で呼吸する。《嶋井和世》

⑧ diaphragm ⑨ diaphragme ⑩ Diaphragma, Zwerchfell

横臥褶曲 おうかしゅうきよく ⑪ 横倒し褶曲 欧化主義 おうかしき 明治前半期、主として明治二〇年前後までの政府のとった制度・組織・風俗・思想・文化などのヨーロッパ化政策(狭義には鹿鳴館の舞踏会などに端的に象徴されるような、真実の近代化とは無縁な表面的な欧化風潮をいう場合もある)。制度・組織の面では徴兵制・学制・税制・議会制度や官僚体制の整備があり、風俗の面では断髪・洋装・肉食などに象徴される文明開化にはじまり、条約改正交渉の便法としての鹿鳴館時代がその極盛時となった。思想・文化の面では福沢諭吉をはじめ森有礼以下啓蒙思想家としての明六社同人、植木枝盛をはじめとする民権思想家、ローマ字会をおこした外山正一ら、植村正久・内村鑑三らキリスト者、坪内逍遙以下の文壇革新の動向などすべてをさす。総じて風俗・制度などにおいては表面的な模倣が多かったが、思想・文化の面、と

くに個人・国家の独立自尊、社会的実利実益を説いた福沢のような場合、内面的規範にまで高められていたといえる。《神田文人》

王冠 おうかん 王位を表徴する冠。または尊厳を示したり、高貴のしるしとしてかぶる冠をいう。国王・僧侶・軍人などが冠をかぶる風習の歴史は古い。古代エジプトでは初代の王メネスの白冠にみられ、これは上エジプト平定の象徴だとされている。ついで、異形の赤冠があらわれ、下エジプトを支配する王の象徴となった。新王国時代になり上下エジプトが統一されると赤白の二重冠が用いられるようになった。

近代の王位を示す王冠の起原は東洋では、絹または麻布に豊富な刺繍をしたバンドであり、ヨーロッパではアレクサンダー大王がペルシア王の用いていたのを採用したのが最初である。ローマの皇帝たちは布バンドと月桂樹の冠の両者を用いたが、後者は王位の表象とは認められていかなかった。しかし、この布バンドが東ローマ皇帝ユスティニアヌス一世(在位五二七~五六五)の時、精巧な飾りをつけた黄金のバンドに変わり、カール大帝(八世紀)の時にアーチ(頭上の部分の十文字のバンド)をつけた帽子状になった。

現在イギリスの王家で用いられている王冠はチャールズ二世(在位一六八五)以来の「聖エドワード王冠」で、ビクトリア女王の戴冠式の時につくられた「帝国王冠」Imperial State Crownの二個で、前者は純金製で約三キと重いの戴冠式の時、儀式的に国王の頭にのせられるだけで、戴冠式の帰路とそれ以後は後者が用いられる。後者は白金の台に二七八三個のダイヤモンド、二七七七個の真珠、一七個のサファイヤ(以上の数字には異説がある)、一一個のエメラルド、五個のルビーが飾られている。ダイヤの中には三〇九カラットの「第二のアフリカの星」があり、ルビーの中には「黒太子」という小鶏卵ぐらいのものが飾られている(黒太子は実際はスビネルであるが、一般にはルビーと呼ばれている)。

現在伝わっている最古の王冠はモンザ(ミラノから一六キ)の聖ジョバンニ聖堂におさめられているロンバルディア王の王冠である。これはグレゴリウス一世(在位五九〇~六〇四)の時代につくられ、黄金のバンドの内側にキリストを処刑したときの十字架の釘を打ちのばしたという鉄がはりつけられているので「鉄の王冠」とも呼ばれている。

その他、過去の諸国の王家に伝えられた歴史的な王冠の中では、マクシミアリアン二世が一五七〇年につくったオーストリアの王冠とロシアのロマノフ朝の王冠が著名である。ロマノフ朝の王冠は一七六三年にエカテリナ二世のためにつくられたもので、五〇〇〇個のダイヤと金銀・真珠でつくられ、中央に四〇〇カラットの赤い尖晶石が輝いている。

なおイギリスでは皇族や貴族が儀式のときにかぶる宝冠(コネット)が定められ、位階に従って装飾が違っている。《春山行夫》

王翰 おうかん (六七七~七三三) 中国、初・盛唐過渡期の詩人。王瀚ともしるす。字は子羽、并州晋陽(山西省太原)の人。七一一年の進士。若年より自負心が強く、奔放な生活を送った。張説の知遇をえ、駕部員外郎に抜擢されたが、説の失脚後、汝州(河南省臨汝県)長史、仙州(河南省葉県)別駕に左遷され、ついに道州(湖南省道県)司馬に流されて死んだ。その詩は壯麗と評されているが、現存の一五首中、「涼州詞」が名高い。《佐藤 保》

王鑑 おうかん (一五六一~一六七七) 中国清代初期の画家。字は日照、号は湘碧。江蘇省太仓の人。明末の大学者王世貞の孫。はじめ官吏となり、廉州の太守をつとめたが、四〇歳で辞して画業に専念した。王時敏とは同郷の親友で、ともに呉派の正系を継ぐ画人として清初の画壇に活躍、清代絵画の基礎を築いた。祖父以来継がれた古画を学び、なかでも董源・巨然を範としたとされる。しかし遺品の上から、その画風は董其昌によって絶対化された元の四大家のひとり黄大痴の画風が支配的で、整った画面と正確な描法をもつものである。《村重 寧》

王冠植民地 おうかんしよくみんち ⑫ イギリス国王直轄で国王任命の総督が統治した植民地。王領植民地ともいわれる。⑬ 王領植民地

王翬 おうき (一三三三~一三七七) 中国清代初期の画家。字は石谷、号は耕煙山人など。虞山の人。王鑑に画才を見いだされたその教えを受け、彼の隠退後は王時敏の指導を得た。康熙帝の『南巡図』を描いたのをはじめ、しばしば帝王の命に応じて作画し、当代一の画聖と称された。画風は南画の正系ともいふべきで、董其昌の典型主義を継いで画面は整備さ